

(様式第9)

19病事務第12号
平成19年10月2日

厚生労働大臣 舩添 要一 殿

開設者名 公立大学法人名古屋市立大学 理事長 西野仁雄
名古屋市立大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	41.25人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	203人	134人	310.2人	看護業務補助	26人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	3人	7.4人	理学療法士	8人	臨床検査技師	37人
薬剤師	28人	4人	32.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	1人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	33人	0人	33.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	606人	31人	630.8人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	3人	2人	4.6人	栄養士	1人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	0人	1人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	61人
管理栄養士	6人	0人	6.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	30人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	674.4人	5.8人	680.2人
1日当たり平均外来患者数	1511.5人	58.8人	1570.3人
1日当たり平均調剤数	入院：581剤 外来：364剤 合計：945剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・痔腫瘍に対する腹腔鏡補助下痔切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	<input checked="" type="radio"/> 有・無	18人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	42人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	20人
・多発性硬化症	22人	・ウェゲナー肉芽腫症	3人
・重症筋無力症	59人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	13人
・全身性エリテマトーデス	232人	・多系統萎縮症	9人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人
・再生不良性貧血	11人	・膿疱性乾癬	22人
・サルコイドーシス	181人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	7人	・原発性胆汁性肝硬変	14人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	158人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	49人	・特発性大腿骨頭壊死症	20人
・結節性動脈周囲炎	27人	・混合性結合組織病	38人
・潰瘍性大腸炎	93人	・原発性免疫不全症候群	5人
・大動脈炎症候群	23人	・特発性間質性肺炎	1人
・ピュルガー病	3人	・網膜色素変性症	2人
・天疱瘡	13人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	19人	・原発性肺高血圧症	9人
・クローン病	30人	・神経線維腫症	5人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	11人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	117人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	2人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	28人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週に1回程度		
剖検の状況	剖検症例数	38例	剖検率 9.4%

(様式第 11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
サイトカインが胃に誘導するEGFリガンドの放出と前駆体C末領域が核内移行する意義	城 卓志	消化器内科	210 万円	補 文部科学省委
トランスグルコシダーゼ(TG)を用いた国民健康維持に関する研究	佐々木 誠人	消化器内科	50 万円	補 市原国際奨学財団委
胃癌におけるES細胞特異的Ras, ERasの機能解析	久保田 英嗣	消化器内科	100 万円	補 消化管分子機構研究会委
胃癌におけるES細胞特異的Ras, ERasの機能解析および新規抗癌剤治療への応用	片岡 洋望	消化器内科	110 万円	補 文部科学省委
ヘリコバクターピロリ除菌後発生胃がんのスナネズミモデルでの経時的検討	溝下 勤	消化器内科	170 万円	補 文部科学省委
肺癌化学療法における抗癌剤耐性化に関するヘパラナーゼ発現の意義およびその治療応用への可能性について	前野 健	呼吸器内科	25 万円	補 (財)愛知県がん研究振興会委
多発性骨髄腫の発症と進展に関与する分子基盤の解明と新規分子標的療法の確立に関する研究	飯田真介	血液・膠原病内科	1098.2 万円	補 厚生労働省 がん研究助成金委託
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	上田龍三	血液・膠原病内科	100 万円	補 厚生労働省がん研究助成金委託
難治性悪性リンパ腫の治療に関する研究	上田龍三	血液・膠原病内科	200 万円	補 厚生労働科学研究補助金委託

CCR4 及び CXCR3 による T 細胞性腫瘍の分子生物学的解明と分子標的研究	上田龍三	血液・ 膠原病 内科	280 万円	(補) 科学研究費 基盤研究 B 委託
制御 T 細胞に発現する CCR4 を分子標的とした新規免疫療法及び臨床応用	石田高司	血液・ 膠原病 内科	180 万円	(補) 科学研究費 若手研究 B 委託
家族性血小板血症の発症機序の分子生物学的解明	小松弘和	血液・ 膠原病 内科	130 万円	(補) 科学研究費 基盤研究 C 委
基盤研究に基づく体系的がん治療	上田龍三	血液・ 膠原病 内科	300 万円	(補) 文部科学省がん特定領域 研究(1) 委
抗体療法の科学的臨床研究	上田龍三	血液・ 膠原病 内科	4,185 万円	(補) 文部科学省 がん特定領域研究(2) 委
家族性血小板血症の責任遺伝子 c-Mpl 変異 Asn505 の機能解析	上田龍三	血液・ 膠原病 内科	110 万円	(補) 文部科学省 特別研究員奨励費 委
治癒切除不能悪性胃幽門部・十二指腸狭窄に対する SEMS (self-expandable metallic stent) 治療の検討	林 香月	肝・膵臓 内科	50 万円	(補) (財)内視鏡医学研究振興 財団 委
B 型肝炎ウイルスの抗ウイルス剤に対する薬剤耐性獲得機構の解明についての研究	折戸悦朗	肝・膵臓 内科	160 万円	(補) 文部科学省 委
急性期脳梗塞の血圧変動と降圧療法に関する研究 -分担課題名- 共同研究への参加と予後関連因子の検討	山脇 健盛	神経内科	150 万円	(補) 厚生労働省 課題番号 18-公-3 委
PET の新しい診断分野の開拓に関する基礎的・臨床的研究	大手信之	循環器・ 心療内科	100 万円	補 国立循環器病センター (委)
梗塞後の薬物療法から予後を改善するメカニズムに関する研究	大手信之	循環器・ 心療内科	150 万円	(補) 文部科学省 委

成人した先天性心疾患患者の管理における心機能・運動耐容能及び神経体液性因子の意義	武田裕	循環器・心療内科	160万円	補 文部科学省委
立位負荷テストによる腎予備能検査を確立する	福田道雄	循環器・心療内科	80万円	補 文部科学省委
アンジオテンシン受容体拮抗薬と利尿薬及びカルシウム拮抗薬の併用療法についての検討	本川正浩	循環器・心療内科	30万円	補 文部科学省委
膝癌におけるシグナル伝達からの神経浸潤機構の解明と治療への応用	高橋 広城	消化器外科	170万円	補 文部科学省委
進行直腸癌における細胞接着分子を標的とした転移・浸潤機構の解明と制御	佐藤 幹則	消化器外科	160万円	補 文部科学省委
RNAi ランゲムクリニン法を用いた p53 誘導新規アポトシ関連因子の検索	羽田裕司	外科 (腫瘍・免疫外科学)	150万円	補 文部科学省委
胸腺腫に対するステロイドパルス療法のメカニズムの解析	小林昌玄	外科 (腫瘍・免疫外科学)	130万円	補 文部科学省委
癌腫に対するエンドスタチン療法の効果増強のために：鍵となる血管新生促進因子の解析	矢野智紀	外科 (腫瘍・免疫外科学)	90万円	補 文部科学省委
非小細胞性肺癌における上皮成長因子受容体遺伝子異常解析を用いたオグニド治療	藤井義敬	外科 (腫瘍・免疫外科学)	450万円	補 文部科学省委
ジェタ化による肺癌における抑癌性遺伝子変異に関する研究	佐々木秀文	外科 (腫瘍・免疫外科学)	240万円	補 文部科学省委
神経芽腫に対する PPAR α 阻害剤投与による腫瘍縮小効果の検討	佐藤陽子	外科 (腫瘍・免疫外科学)	210万円	補 文部科学省委

食道癌における高発現遺伝子抑制：創薬ターゲット遺伝子の同定	石黒秀行	外科 (腫瘍・免疫外科学)	240 万円	補 文部科学省委
胸腺の POSITIVE SELECTION におけるメカニズムの解明	鈴木恵理子	外科 (腫瘍・免疫外科学)	180 万円	補 文部科学省委
食道癌における microRNA 関連遺伝子の分子生物学的機序	杉戸伸好	外科 (腫瘍・免疫外科学)	200 万円	補 文部科学省委
非小細胞性肺癌における erbB2 遺伝子異常解析とその遺伝子異常についての機能解析	遠藤克彦	外科 (腫瘍・免疫外科学)	210 万円	補 文部科学省委
肺癌における erbB ファミリー遺伝子変異と関連因子発現に関する研究	佐々木秀文	外科 (腫瘍・免疫外科学)	890 万円	補 文部科学省委
マイクロアレイを用いた食道癌におけるマイクロ RNA 研究	桑原義之	外科 (腫瘍・免疫外科学)	290 万円	補 文部科学省委
重症筋無力症の外科治療	藤井義敬	外科 (腫瘍・免疫外科学)	90 万円	補 厚生労働省委
関節リウマチにおける血管新生とグリオスタチンの分子機構	永谷祐子	整形外科	130 万円	補 文部科学省委
脊髄性疼痛抑制系におけるジペプチジルペプチダーゼ III とインヒビターの相互作用	福岡宗良	整形外科	150 万円	補 文部科学省委
妊娠高血圧症候群予防・治療にむけての妊婦の適切な栄養管理に関する総合的研究	鈴木佳克	産科 婦人科	180 万円	補 文部科学省委
妊娠高血圧症候群の血管内皮機能障害に対する葉酸の改善効果の基礎的研究	山本珠生	産科 婦人科	200 万円	補 文部科学省委

中高年婦人の更年期症状に対する漢方薬の有用性に関する研究	鈴木佳克	産科 婦人科	30万円	補 東海医学研究財団 委
早産児における脳室周囲白室軟化症の早期診断法の開発	戸蒔 創	小児科	180万円	補 文部科学省 委
新生児における大脳基底核病変の病態解明と治療法および予防法の確立	福田純男	小児科	40万円	補 文部科学省 委
乳幼児突然死症候群(SIDS)の発症因子と覚醒反応発現に関する研究	加藤稲子	小児科	80万円	補 文部科学省 委
CMV胎内感染におけるCMV DNA量及び遺伝子型と乳幼児期に病態に関する研究	後藤健之	小児科	60万円	補 文部科学省 委
脳室周囲白室軟化症実験モデルに対するエリスロポイエチンの有用性と細胞移植の検討	水野恵介	小児科	260万円	補 文部科学省 委
新生児虚血性脳症とサイトカインおよびサイトカイン遺伝子多型との関連	藤本伸治	小児科	130万円	補 文部科学省 委
乳幼児突然死症候群(SIDS)における科学的根拠に基づいた病態解明および臨床対応と予防法の開発に関する研究	戸蒔 創	小児科	588万円	補 厚生労働科学研究費補 助金 委
siRNA含有ナノスフェアによる網膜血管内皮細胞の遺伝子発現制御	小椋 祐一郎	眼科	130万円	補 文部科学省 委
加齢黄斑変性に対する血管内皮増殖因子を標的としたドラッグデリバリーシステムの開発	小椋 祐一郎	眼科	560万円	補 独立行政法人 日本学術振興会 委
網膜微小循環障害での白血球動態異常の分子メカニズムの解明-腫瘍壊死因子 α の意義-	吉田 宗徳	眼科	90万円	補 独立行政法人 日本学術振興会 委

siRNA を用いた血管内皮接着分子抑制による脈絡膜新生血管の治療の開発	櫻井 英二	眼科	100 万円	補 文部科学省委
加齢黄斑変性の新しい治療評価系としての家兔眼実験モデルの開発	安川 力	眼科	130 万円	補 独立行政法人 日本学術振興会 委
HMG-CoA 還元酵素阻害剤の脈絡膜新生血管抑制機序の解明	山田 潔	眼科	110 万円	補 文部科学省委
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	小椋 祐一郎	眼科	200 万円	補 厚生労働省委
Bell 麻痺、Hunt 症候群の早期診断と病因・病態・治療に関する基礎・臨床的研究	村上 信五	耳鼻 いんこう 科	200 万円	補 文部科学省委
嗅覚障害での嗅上皮再生における研究	濱島 有喜	耳鼻 いんこう 科	120 万円	補 文部科学省委
環境因子と遺伝因子からみた尿路結石形成機序の解明と再発リスク診断法・治療薬の開発	郡 健二郎	泌尿器科	1500 万円	補 文部科学省委
生殖細胞の発生・分化に関わる遺伝子の同定およびその機能解析	林 祐太郎	泌尿器科	180 万円	補 文部科学省委
精子における遺伝子機能解析と新しい不妊診断・治療法への臨床応用	郡 健二郎	泌尿器科	190 万円	補 文部科学省委
遺伝子導入を用いた精子形成の試みと男子不妊症臨床応用に向けた基礎的研究	小島 祥敬	泌尿器科	450 万円	補 文部科学省委
尿路結石のオステオポニン-塩基多型(SNP)の機能解析と遺伝診断法の開発	安井 孝周	泌尿器科	250 万円	補 文部科学省委
尿路結石の形成に係わるゲノム解析と抗酸化抑制作用	伊藤 恭典	泌尿器科	260 万円	補 文部科学省委
遺伝子導入した ES 細胞を用いた尿路組織構成細胞の誘導と尿路再建の可能性	丸山 哲史	泌尿器科	120 万円	補 文部科学省委

男子不妊症の病態解明と転写因子DAX-1を用いた男子不妊症に対する遺伝子治療	池内 隆人	泌尿器科	100万円	補 文部科学省委
正常および過活動膀胱におけるc-kit陽性間質細胞機能の研究	窪田 泰江	泌尿器科	120万円	補 文部科学省委
遺伝子導入を用いた精子形成の試みと男子不妊症臨床応用に向けた基礎的研究	小島 祥敬	泌尿器科	200万円	補 上原記念生命科学財団 委
精神療法の実施と有効性に関する研究	古川壽亮	精神科	400万円	補 厚生労働省委
統合失調症治療のガイドラインの作成とその検証に関する研究	古川壽亮	精神科	45万円	補 (国立精神・神経センター 精神神経疾患研究委託 費) 委
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究	古川壽亮	精神科	110万円	補 (国立精神・神経センター 精神神経疾患研究委託 費) 委
治療抵抗性うつ病に対する認知行動分析システム精神療法とその品質管理体制の開発研究	古川壽亮	精神科	90万円	補 文部科学省委
がん患者の精神症状に対する心理社会的介入法の開発	明智龍男	精神科	300万円	補 厚生労働省委
せん妄の早期発見、早期治療のための医療スタッフ向け教育プログラムの開発	明智龍男	精神科	100万円	補 文部科学省委
主治医による、がん患者の支持的ケアニーズについての認識に関する研究	奥山 徹	精神科	180万円	補 日本学術振興会科学研究 費補助金(若手研究 (B)) 委
遺伝子解析による腫瘍と正常組織の放射線感受性の評価の研究	芝本雄太	放射線科	110万円	補 文部科学省委

放射線照射患者を対象とした遺伝子多型解析による有害事象予測に関する研究	芝本雄太	放射線科	105万円	補 独立行政法人放射線医学総合研究所 (委)
血管内皮前駆細胞移植による脳毛細血管再生と遺伝子治療への応用	竹内 昭憲	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	60万円	(補) 文部科学省委
ニューロカインによる末梢侵害受容機構の修飾	杉浦 健之	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	200万円	(補) 文部科学省委
水チャネル・アクアポリンを標的とした新規脳浮腫治療薬の開発	山内 浩揮	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	130万円	(補) 文部科学省委
アシデミアが蘇生後脳症における脳浮腫に与える影響-水チャネルの昨日に注目して	森島 徹朗	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	130万円	(補) 文部科学省委
新しい脳水分測定法の開発と基礎的応用-水チャネルに着目した新脳浮腫治療法の開発-	平手 博之	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	130万円	(補) 文部科学省委
細胞障害に対する水チャネル<アクアポリン>の保護的作用と新しい脳浮腫治療への応用	安藤 雅樹	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	120万円	(補) 文部科学省委
水チャネル<アクアポリン>を標的とした新しい脳浮腫治療法の開発	祖父江 和哉	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	190万円	(補) 文部科学省委
RNAi を用いた軽度低温の脳浮腫抑制効果に果たす水チャネル機能の解析	藤田 義人	麻酔科 (麻酔危機管理医学分野)	130万円	(補) 文部科学省委
オリゴデンドロサイトのシグナル伝達を指標とした損傷軸索再生の試み	山田和雄	脳神経外科	510万円	(補) 文部科学省委
アクアポリン1発現を指標とした水頭症の成因についての検討	間瀬光人	脳神経外科	170万円	(補) 文部科学省委
新規のコラーゲンゲル内培養法を利用した神経膠腫細胞浸潤の解析	谷川元紀	脳神経外科	110万円	(補) 文部科学省委

びまん性軸索損傷モデルによるMSP遺伝子および蛋白発現についての分子生物学解析	岡 雄一	脳神経外科	80万円	補 文部科学省委
内頸動脈閉塞症にともなう血行力学的脳梗塞の発症予防に関する研究	山田和雄	脳神経外科	50万円	補 厚生労働省委
高次脳障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究	山田和雄	脳神経外科	300万円	補 厚生労働省委
肝炎ウイルスデータベース	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	600万円	補 日本学術振興会委
アフリカにおける肝炎ウイルスの分子疫学的・分子生物学的検討	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	250万円	補 日本学術振興会委
B型肝炎ウイルスコアプロモーター領域の変異と発癌メカニズムの解明	田中 靖人	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	260万円	補 日本学術振興会委
E型肝炎の感染経路・宿主域・遺伝的多様性・感染防止・診断・治療に関する研究	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	100万円	補 厚生労働省委
主にアジアに蔓延するウイルス性肝疾患の制御に資する為の日米合作的肝炎ウイルス基礎研究	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	100万円	補 厚生労働省委
B型及びC型肝炎の疫学及び検診を含む肝炎対策に関する研究	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	200万円	補 厚生労働省委
C型肝炎ウイルス等の母子感染に関する研究	溝上 雅史	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)	130万円	補 厚生労働省委

合計 99 件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Histopathology. (発行2006年12月 日)	Mutations and nuclear accumulation of beta-catenin correlate with intestinal phenotypic expression in human gastric cancer.	Ogasawara N, et al	消化器内科
J Gastroenterol. (発行2006年11月 日)	Bone morphogenetic protein 2 induced differentiation toward superficial epithelial cells in the gastric mucosa.	Itoh K, et al	消化器内科
Dig Endosc. (発行2006年4月 日)	Peutz-Jeghers syndrome associated with renal and gastric cancer that demonstrated an <i>STK11</i> missense mutation.	Kataoka H, et al	消化器内科
Cancer Sci 2007;97(3):192-198. (発行2007年3月1日)	Pulmonary-renal syndrome in systemic sclerosis: a report of three cases and review of the literature.	小栗鉄也	呼吸器内科
Oncogene 2007;25(2):271-277. (発行2007年1月12日)	Altered regulation of c-jun and its involvement in anchorage-independent growth of human lung cancers	前野健	呼吸器内科
Mol cancer Ther 2007;6(1):122-12 (発行2007年1月1日)	MRP8/ABCC11 directly confers resistance to 5-fluorouracil	小栗鉄也	呼吸器内科
Cancer Research (発行18年 月 日)	Specific recruitment of CC chemokine receptor 4-positive regulatory T cells in Hodgkin lymphoma fosters immune privilege.	石田高司	血液・膠原病内科
Leukemia (発行18年 月 日)	Induction of cell death in adult T-cell leukemia cells by a novel I·B kinase inhibitor	三田貴臣	血液・膠原病内科
Int J Cancer (発行18年 月 日)	Clinical significance of serum Th1-, Th2- and regulatory T cells-associated cytokines in adult T-cell leukemia/lymphoma: High interleukin-5 and -10 levels are significant unfavorable prognostic factors.	稲垣淳	血液・膠原病内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Leukemia (発行18年 月 日)	The CCR4 as a novel specific molecular target for immunotherapy in Hodgkin lymphoma	石田高司	血液・ 膠原病 内科
Int J Cancer (発行19年 月 日)	Regulatory T-cell function of adult T-cell leukemia/lymphoma cells	矢野寛樹	血液・ 膠原病 内科
Haematologica (発行19年 月 日)	Induction of class II major histocompatibility complex expression in multiple myeloma cells by a selective retinoid Am80 (Tamibarotene)	三田貴臣	血液・ 膠原病 内科
Mod Rheumatol. 2007;17(1):37-44. (発行2007年2月20日)	Pulmonary-renal syndrome in systemic sclerosis: a report of three cases and review of the literature.	Naniwa T, et al	血液・ 膠原病 内科
Gastrointest Endosc, 65: 99-108, 2007. (発行19年1月)	Difficulty in diagnosing autoimmune pancreatitis by imaging findings.	Nakazawa T	肝・ 膵臓 内科
Pancreas, 32: 115-117, 2006. (発行18年10月)	Histopathologic similarities of inflammatory pseudotumor to autoimmune pancreatitis. A morphologic and immunohistochemical study of four cases.	Ohara H	肝・ 膵臓 内科
Pancreas, 32: 229, 2006. (発行18年10月)	Schematic classification of sclerosing cholangitis with autoimmune pancreatitis by cholangiography.	Nakazawa T	肝・ 膵臓 内科
日本消化器病学会雑誌, 103: 405-414, 2006. (発行18年4月)	切除不能悪性胃幽門部・十二指腸狭窄における Covered self-expandable metallic stent の有用性.	林 香月	肝・ 膵臓 内科
膵臓, 21: 89-94, 2006. (発行18年4月)	膵管ステントを契機に膵嚢胞感染を発症した慢性膵炎の1例.	小林真哉	肝・ 膵臓 内科
日本肝臓学会誌, 47: 474-481, 2006. (発行18年10月)	胃粘膜下腫瘍と鑑別が困難であった肝硬化性血管腫の1例	林 香月	肝・ 膵臓 内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastroenterol Endosc, 48:2495-2499, 2006. (発行18年10月)	石灰乳胆汁が総胆管に流出し閉塞性黄疸をきたしたため内視鏡的乳頭括約筋切開術を施行した1例	林 香月	肝・ 膵臓 内科
Gastroenterol Endosc, 48:2656-2661, 2006. (発行18年11月)	大腸内視鏡下の瘻孔縫縮術により閉鎖した胆嚢結腸瘻の1例	林 香月	肝・ 膵臓 内科
膵臓, 21:378-380, 2006. (発行18年12月)	自己免疫性膵炎の膵外合併症	大原弘隆	肝・ 膵臓 内科
Hepatology. 2006 Oct;44(4):915-24. (発行 年 月 日)	Influence of hepatitis B virus genotypes on the intra- and extracellular expression of viral DNA and antigens.	Sugiyama M	肝・ 膵臓 内科
Hepatol Res. 2006 Dec;36(4):272-276. Epub 2006 Sep 12. (発行 年 月 日)	Measurement of hepatitis B virus core-related antigen as predicting factor for relapse after cessation of lamivudine therapy for chronic hepatitis B virus infection.	Shinkai N	肝・ 膵臓 内科
Hepatol Res. 2006 Oct;36(2):107-114. Epub 2006 Sep 7. (発行 年 月 日)	Spatial and chronological differences in hepatitis B virus genotypes from patients with acute hepatitis B in Japan.	Sugauchi F	肝・ 膵臓 内科
J Gen Virol. 2006 Jul;87(Pt 7):1873-82. (発行 年 月 日)	Novel subtypes (subgenotypes) of hepatitis B virus genotypes B and C among chronic liver disease patients in the Philippines.	Sakamoto T	肝・ 膵臓 内科
Hepatol Res. 2006 Jun;35(2):127-34. Epub 2006 Apr 19. (発行 年 月 日)	A case-control study of response to lamivudine therapy for 2 years in Japanese and Chinese patients chronically infected with hepatitis B virus of genotypes Bj, Ba and C.	Orito E	肝・ 膵臓 内科
Cell Transplantation 2006, 15(3)	Behavioral and Histological Characterization of Intrahippocampal Grafts of Human Bone Marrow-Derived Multipotent Progenitor Cells in Neonatal Rats With Hypoxic-Ischemic Injury.	Matsukawa N	神経 内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroscience Res. 2006, Oct; 56(2)	Dietary supplementation of arachidonic and docosahexaenoic acids improves cognitive dysfunction: A preliminary report.	Matsukawa N	神経内科
J Neurosci. 2006 Nov 29;26(48)	Transplantation of human neural stem cells exerts neuroprotection in a rat model of Parkinson's disease.	Matsukawa N	神経内科
J Neurosci. 2007 Feb 14;27(7)	Early Changes In KCC2 Phosphorylation In Response To Neuronal Stress Results In Functional Downregulation.	Wake H	神経内科
Nephrol Dial Transplant. (発行 2006 年 月 日)	Polynocturia in chronic kidney disease is related to natriuresis rather than to water diuresis	Michio Fukuda	循環器・心療内科
Medical Hypothesis (発行 2006 年 月 日)	Hypothesis on renal mechanism of non-dipper pattern of circadian blood pressure rhythm.	Michio Fukuda	循環器・心療内科
Dig Surg (発行 2006 年 4 月)	A new method for constructing an ileal J pouch without an enterotomy.	Takeyama H	消化器外科
Hepatogastroenterology (発行 2006 年 5-6 月)	Surgical treatment for relief of severe pain with chronic pancreatitis that is resistant to conservative treatment.	Sawai H	消化器外科
Oncogene (発行 2006 年 6 月)	Integrin-linked kinase activity is associated with interleukin-1 α -induced progressive behavior of pancreatic cancer and poor patient survival.	Sawai H	消化器外科
Dig Dis Sci (発行 2006 年 7 月)	Combined gemcitabine and α -interferon therapy for pancreatic cancer: report of a case.	Sawai H	消化器外科
Surg Today (発行 2006 年 9 月)	Limiting vein puncture to three needle passes in subclavian vein catheterization by the infraclavicular approach.	Takeyama H	消化器外科
BMC Gastroenterol (発行 2006 年 9 月)	Reactive lymphoid hyperplasia of the liver in a patient with colon cancer: report of two cases.	Takahashi H	消化器外科
Dig Surg (発行 2006 年 4 月)	A new method for constructing an ileal J pouch without an enterotomy.	Takeyama H	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器疾患-state of arts I 消化管 (食道・胃・腸) (発行 2006 年 4 月)	【消化器疾患 State of arts 消化管 (食道・胃・腸)】治療法をめぐる最近の進歩 栄養管理 在宅栄養療法	廣川高久	消化器外科
肝胆膵治療研究会誌 (発行 2006 年 8 月)	仮性動脈瘤による仮性膵嚢胞内出血の 1 例—症例報告と仮性膵嚢胞手術症例の検討—	松尾洋一	消化器外科
Hepatogastroenterology (発行 2006 年 9-10 月)	Clinicopathologic study of intraductal papillary-mucinous tumors and mucinous cystic tumors of the pancreas.	Tanaka M	消化器外科
Med Sci Monit (発行 2006 年 10 月)	Malignant solitary fibrous tumor originating from the peritoneum and review of the literature.	Tanaka M	消化器外科
Mol Cancer (発行 2006 年 10 月)	The stem cell factor/c-kit receptor pathway enhances proliferation and invasion of pancreatic cancer cells.	Yasuda A	消化器外科
Anticancer Res (発行 2006 年 11-12 月)	Treatment for peritoneal carcinomatosis using carboplatin-loaded hydroxyapatite particles.	Takeyama H	消化器外科
日本内視鏡外科学会雑誌 (発行 2006 年 12 月)	腹腔鏡下に切除し得た異物穿通による大網炎症性腫瘍の 1 例	高橋広城	消化器外科
よくわかって役に立つ最新栄養予防・治療学 (発行 2007 年 1 月)	栄養補給法 A 投与ルート選択のアルゴリズム—A. S. P. E. N. のガイドラインに準じて	坂本雅樹	消化器外科
日本消化器外科学会雑誌 (発行 2007 年 2 月)	大腿ヘルニア嵌頓を契機に発症したと思われる腹部食道破裂の 1 例	廣川高久	消化器外科
日本消化器外科学会雑誌 (発行 2007 年 3 月)	大腸癌に合併した肝 reactive lymphoid hyperplasia の 1 例	高橋広城	消化器外科
分子消化器病 (発行 2007 年 3 月)	【消化器癌浸潤・転移における間質・血管新生を探る】膵癌転移における接着分子の役割を探る	沢井博純	消化器外科
Int J Cancer, 118(1):180-184, 2006 (発行 年 月 日)	EGFR and erbB2 mutation status in Japanese lung cancer patients	Sasaki H	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Lung Cancer, 51(1):135-136, 2006 (発行 年 月 日)	EGFR mutation status and prognosis for gefitinib treatment in Japanese lung cancer	Sasaki H	外科 (腫瘍・免疫外科学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Thorac Surg, 81(1):366-368, 2006 (発行年月日)	ACTH secreting thymic carcinoid associated with multiple endocrine neoplasia type 1	Yano M	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Breast Cancer, 13(1):74-83, 2006 (発行年月日)	Immunohistochemical evaluation of hormone receptor status for predicting response to endocrine therapy in metastatic breast cancer	Yamashita H	外科 (腫瘍・免疫外科学)
肺癌, 45(7):817-821, 2006(発行年月日)	異時性多発肺癌における第二肺癌切除術の検討	矢野智紀	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Jpn J Clin Oncol, 36(2):69-75, 2006 (発行年月日)	A correlation between EGFR gene mutation status and bronchioloalveolar carcinoma features in Japanese patients with adenocarcinoma	Haneda H	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Surgery Frontier, 13(1):46-51, 2006 (発行年月日)	肺癌の個別化治療	佐々木秀文	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Lung Cancer Update, 27:7, 2006 (発行年月日)	日本人肺癌患者における EGFR と erbB2 突然変異状態	佐々木秀文	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Lung Cancer, 54(1):103-108, 2006 (発行年月日)	L858R EGFR mutation status correlated with clinoco-pathological features of Japanese lung cancer	Sasaki H	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Lung Cancer, 54(2):209-215, 2006 (発行年月日)	PIK3CA mutation status in Japanese lung cancer patients	Kawano O	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Clin Lung Cancer, 7(6):412-416, 2006 (発行年月日)	Decreased fragile histidine triad gene messenger RNA expression in lung cancer	Sasaki H	外科 (腫瘍・免疫外科学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Clin Lung Cancer, 8(1):45-48, 2006 (発行 年 月 日)	Decreased kallikrein 11 messenger RNA expression in lung cancer	Sasaki H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
J Surg Res, 133(2):203-206, 2006 (発行 年 月 日)	Uncommon V599E BRAF mutations in Japanese patients with lung cancer	Sasaki H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Oncol Rep, 16(3):533-541, 2006 (発 行 年 月 日)	Evaluation of the epidermal growth factor receptor gene mutation and copy number in non-small cell lung cancer with gefitinib therapy	Endo K	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
頭 頸 部 癌 , 32(3):263-266, 2006 (発 行 年 月 日)	頸胸境界部の食道癌に対する手術－大網 を利用した縦隔気管瘻造設法－	桑原義之	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Ann Thorac Cardiovasc Surg, 12(2):81-82, 2006 (発行 年 月 日)	Endoscopic thoracic sympathectomy for palmar hyperhidrosis	Yano M	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Cancer, 106(9):1901-1907, 2006 (発行 年 月 日)	Preoperative steroid pulse therapy for invasive thymoma: clinical experience and mechanism of action	Kobayashi Y	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Jpn J Clin Oncol, 36(6):351-356, 2006 (発 行 年 月 日)	Expression and mutation statuses of epidermal growth factor receptor in thymic epithelial tumors	Suzuki E	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Jpn J Clin Oncol, 36:357-363, 2006 (発行 年 月 日)	Low expression of the Snail gene is a good prognostic factor in node-negative invasive ductal carcinomas.	Toyama T	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Oncol Rep, 15(6):1551-1555, 2006 (発行年月日)	Expression of ACP6 is an independent prognostic factor for poor survival in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Ando T	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
坂本吾偉, 野口昌邦監 修, 金原出版(株), p309-314, 2006 (発行年月日)	現在、乳癌治療に用いられている内分泌療法剤「乳腺疾患の臨床」	小林俊三	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
J Thorac Oncol, 1(5):413-416, 2006 (発 行年月日)	Epidermal growth factor receptor gene mutation and computed tomographic findings in peripheral pulmonary adenocarcinoma	Yano M	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Nature Medicine, 12(7):852-855, 2006 (発 行年月日)	Sensitive mutation detection in heterogeneous cancer specimens by massively parallel picoliter reactor sequencing	Sasaki H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
日呼外会誌, 19(7): 889-893, 2005 (発行 年月日)	膿胸治療中に早期発見され放射線治療と胸膜肺全摘術により根治しえた膿胸関連悪性リンパ腫の1例	佐々木秀文	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
日本乳癌学会編, 金原出 版(株), 2006年(発行 年月日)	「乳がん診療ガイドラインの解説」	遠山竜也	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Breast Cancer Res, 8:R48, 2006 (発行年 月日)	p53 protein accumulation predicts resistance to endocrine therapy and decreased post-relapse survival in metastatic breast cancer	Yamashita H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Dis Esophagus, 19:454-458, 2006 (発行年月 日)	Decreased expression of NDRG1 is correlated with tumor progression and poor prognosis in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Ando T	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Proc Natl Acad Sci USA, 103(20):7817-7822, 2006 (発行年月 日)	Epidermal growth factor receptor variant III mutations in lung tumorigenesis and sensitivity to tyrosine kinase inhibitors	Sasaki H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Endocr-Relat Cancer, 13:885-893, 2006 (発行 年 月 日)	Stat5 expression predicts response to endocrine therapy and improves survival in estrogen receptor-positive breast cancer	Yamashita H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
名市大医誌, 57(2):37-40, 2006 (発行年 月 日)	頸胸境界部進行食道癌に対する外科治療	桑原義之	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
名市大医誌, 57: 21-24, 2006 (発行年 月 日)	早期乳癌に対するセンチネルリンパ節生 検の経験	安藤由明	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
名市大医誌, 57: 41-45, 2006 (発行年 月 日)	乳癌ホルモン療法の効果予測因子の解析 -臨床から基礎へ、基礎から臨床へ-	山下啓子	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
日外会誌, 107(6):278-283, 2006 (発行年 月 日)	「特集 縦隔疾患に対する外科的アプロ ーチ」6. 縦隔原発胚細胞性腫瘍の外科 治療成績	矢野智紀	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
癌と化学療法, 33(11):1547-1552, 2006 (発行年 月 日)	胸腺腫の臨床と生物学的活性	藤井義敬	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Clin Cancer Res, 12:6410-6414, 2006 (発行 年 月 日)	Reduced expression of the breast cancer metastasis suppressor 1 mRNA is correlated with poor progress in breast cancer	Yamashita H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Clin Cancer Res, 12(24):7322-7328, 2006 (発行年 月 日)	RNASEN regulates cell proliferation and affects survival in esophageal cancer patients	Sugito N	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)
Clin Lung Cancer, 7:350-352, 2006 (発行年 月 日)	Right partial anomalous pulmonary venous connection found during lobectomy for coexisting lung cancer and tuberculosis report of a case	Sasaki H	外科 (腫瘍 ・免疫 外科学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer 13:232-235, 2006 (発行年月日)	Immunohistochemical evaluation for hormone receptors in breast cancer: A practically useful evaluation system and handling protocol	Yamashita H	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Jpn J Clin Oncol, 36(6):357-363, 2006 (発行年月日)	Low Expression of the snail gene is a good prognostic factor in node-negative invasive ductal carcinomas	Toyama T	外科 (腫瘍・免疫外科学)
Annals of Thoracic Surgery (発行2007年3月日)	Geometric disproportion of cardiac structure and graft ischemia affect tricuspid valve regurgitation early after neonatal heart transplantation	Asano M	心臓血管外科
Biomechanical Research, 217,167-174, 2006 (発行2006年4月)	Intercellular communications within the rat anterior pituitary.13: An immunohistochemical and physiological study of the anterior pituitary gland of the rat,	Otsuka Y., et al.	整形外科
J Dermatol Sci. 44,175-178, 2006 (発行2006年5月)	Fate of transplanted nail matrical cells and potential of hard keratin production in vivo	Okamoto H., et al.	整形外科
Brain Research 1119,65-75, 2006 (発行2006年7月)	Combining motor training with transplantation of rat bone marrow stromal cells does not improve repair or recovery in rats with thoracic contusion injuries,	Yoshihara H., et al.	整形外科
Spine, 32, E30-E33, 2006 (発行2006年8月)	Safe atlantoaxial fixation using laminar screw (intra laminar screw) in a patient with unilateral occlusion of vertebral artery	Matsubara T., et al.	整形外科
APLAR Journal of Rheumatology, (発行2006年9月)	Experience of hip replacement for the idiopathic thrombocytopenic purpura patients	Iguchi H., et al.	整形外科
APLAR Journal of Rheumatology (発行2006年9月)	10 years experience of lateral flare stem with 3D preoperative planning system	Iguchi H., et al.	整形外科
Human Reproduction (発行2006年10月)	Complement as a predictor of further miscarriage in couples with recurrent miscarriages.	Sugiura M, et al.	産科 婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
European Journal of Obstetrics & Gynecology and Reproductive Biology (発行 2006 年 5 月)	First trimester diagnosis of conjoined twins in a triplet pregnancy.	Suzumori N, et al.	産科 婦人科
Gynecologic Oncology (発行 2006 年 6 月)	Elevated serum RANTES levels in patients with ovarian cancer correlate with the extent of the disorder.	Suzumori N, et al.	産科 婦人科
Journal of Human Geneics (発行 2006 年 6 月)	Sibling risk of pervasive developmental disorder estimated by means of an epidemiologic survey in Nagoya, Japan.	Tanemura M, et al.	産科 婦人科
Neurobiology of disease (発行 2006 年 10 月)	Bcl-2 phosphorylation in the BH4 domain precedes caspase-3 activation and cell death after neonatal cerebral hypoxic-ischemic injury.	Ozaki Y, et al.	産科 婦人科
東海産科婦人科学会雑誌 (発行 2006 年 12 月)	当院における精巣内精子回収法 (TESE) または精巣上体精子吸引術 (MESA) により得られた精子を用いた卵細胞質内精子注入法 (ICSI) の臨床成績	牧野亜衣子, 他	産科 婦人科
東海産科婦人科学会雑誌 (発行 2006 年 12 月)	一絨毛膜二羊膜双胎における妊娠中期一児死亡の 2 症例	服部幸雄, 他	産科 婦人科
Current Medicinal Chemistry (発行 2007 年 3 月)	Candidate genes for premature ovarian failure.	Suzumori N, et al.	産科 婦人科
Pediatr Neurol (発行 2006 年 12 月 日)	Short-Duration ACTH Therapy for Cryptogenic West Syndrome With Better Outcome.	Hattori Ayako	小児科
Tohoku J Exp Med (発行 2006 年 12 月 日)	Periventricular leukomalacia with late-onset circulatory dysfunction of premature infants: Correlation with severity of magnetic resonance imaging findings and neurological outcomes.	Kobayashi Satoru	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Neurol (発行 2006 年 11 月 日)	A case of spinal cord injury that occurred in utero.	Kobayashi Satoru	小児科
日本未熟児新生児学会雑誌 (発行 2006 年 6 月 日)	新生児医療からみた SIDS.	戸苺 創	小児科
名市大医誌 (発行 2006 年 11 月 日)	てんかんを発達的に見る-特に West 症候群をめぐって-	石川 達也	小児科
Endocrine (発行 2006 年 12 月 日)	Clinical Significance of Heterozygous Carriers Associated with Compensated Hypothyroidism in 450H, a Common Inactivating Mutation of the Thyrotropin Receptor Gene in Japanese.	Kanda keisuke	小児科
感染と抗菌薬 (発行 2006 年 6 月 日)	小児インフルエンザ治療における抗ウイルス薬とマクロライド併用療法.	鈴木 悟	小児科
Sleep (発行 2006 年 6 月 日)	Spontaneous arousability in prone and supine position in healthy infants.	Kato Ineko	小児科
Pediatr Res (発行 2006 年 12 月 日)	Total hydroperoxide and biological antioxidant potentials in a neonatal sepsis model.	Kakita Hiroki	小児科
Tohoku J Exp Med (発行 2007 年 1 月 日)	Polymorphisms of the Factor VII Gene Associated with the Low Activities of Vitamin K-dependant Coagulation Factors in One-Month-Old Infants.	Ito Kouichi	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Tohoku J Exp Med (発行 2007 年 2 月 日)	Cardiac vagal activation by Adrenocorticotrophic hormone treatment in infants with Wset syndrome.	Hattori Ayako	小児科
日本眼科学会会誌 (発行 2006 年 5 月 日)	黄斑疾患に対するトリアムシノロン局所 投与後の眼圧上昇	野崎 実穂	眼科
日本眼科紀要 (発行 2006 年 5 月 日)	トリアムシノロンアセトニドの後部テノ ン嚢下投与が著効を示した視神経炎の 1 例	太田 聡	眼科
眼科手術 (発行 2006 年 7 月 日)	アクリソフシングルピースとスリーピー スの術後安定性の比較	平野 佳男	眼科
Jpn J Ophthalmol (発行 2006 年 7-8 月日)	Long-term retention of dye after Indocyanine green-assisted internal limiting membrane peeling.	Ashikari Masayuki	眼科
眼科臨床医報 (発行 2006 年 9 月 日)	瘢痕期未熟児網膜症に発症した網膜上膜 の 1 例	倉知 豪	眼科
Nature (発行 2006 年 10 月 日)	Corneal avascularity is due to soluble VEGF receptor-1.	Nozaki Miho	眼科
あたらしい眼科 (発行 2007 年 2 月 日)	光干渉断層計で経過が追えた自然閉鎖し た特発性黄斑円孔の 2 症例	谷口 香織	眼科
日本臨牀 (発行 2006 年 月 日)	ヘルペスウイルス学－基礎・臨床研究の 進歩－.	村上 信五	耳鼻 いん こう科
日本臨牀 (発行 2006 年 月 日)	ヘルペスウイルス学－基礎・臨床研究の 進歩－.	村上 信五	耳鼻 いん こう科
耳鼻臨床 (発行年 2006 月 日)	顔面神経減荷術.	村上 信五	耳鼻 いん こう科
Molecular reproduction and development (発行 2006 年 4 月)	Genes associated with the formation of germ cells from embryonic stem cells in cultures containing different glucose concentrations.	Mizuno K et al.	泌尿 器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Prostate (発行 2006 年 7 月)	Quantification of alpha-adrenoceptor subtypes by real-time RT-PCR and correlation with age and prostate volume in benign prostatic hyperplasia patients.	Kojima Y et al.	泌尿器科
Neurourology and Urodynamics (発行 2006 年 5 月)	Effects of imatinib mesylate (Glivec R) as a c-kit tyrosine kinase inhibitor in the guinea-pig urinary bladder.	Kubota Y et al.	泌尿器科
Journal of Urology (発行 2006 年 6 月)	Assessment of serum follicle-stimulating hormone level and testicular volume for prediction of paternity potential in pubertal boys who underwent bilateral orchiopexy in childhood.	Kojima Y et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2006 年 6 月)	Role of transcription factors Ad4BP/SF-1 and DAX-1 in steroidogenesis and spermatogenesis in human testicular development and idiopathic azoospermia.	Kojima Y et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2006 年 6 月)	Mathieu and Barcat repair with a V incision sutured meatoplasty for secondary hypospadias surgery.	Hayashi Y et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2006 年 7 月)	Pseudo-clitoromegaly associated with congenital prepubic sinus.	Hayase M et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2006 年 11 月)	Development of multiple calculi in the duplex system ureterocele.	Nakane A et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2007 年 1 月)	Influence for testicular development and histological peculiarity in the testes of flutamide-induced cryptorchid rat model.	Mizuno K. et al.	泌尿器科
International Journal of Urology (発行 2007 年 2 月)	Management of urethral calculi associated with hairballs after urethroplasty for severe hypospadias.	Hayashi Y. et al.	泌尿器科
British Journal of Psychiatry (発行 2006 年 4 月 日)	Psychotherapy plus antidepressant for panic disorder with or without agoraphobia: systematic review	Furukawa, T. A. et al	精神科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Psycho-Oncology (発行 2006 年 6 月 日)	Course of psychological distress and its predictors in advanced non-small cell lung cancer patients	Akechi, T. et al	精神科
Journal of Pain and Symptom Management (発行 2006 年 5 月 日)	Screening for depression in terminally ill cancer patients in Japan	Akechi, T. et al	精神科
Journal of ECT (発行 2006 年 6 月 日)	Memory, attention, and executive functions before and after sine and pulse wave electroconvulsive therapies for treatment-resistant major depression	Fujita, A. et al	精神科
BMC Psychiatry (発行 2006 年 8 月 16 日)	Interoceptive hypersensitivity and interoceptive exposure in patients with panic disorder: specificity and effectiveness	Lee, K. et al	精神科
Psychiatry Research Neuroimaging (発行 2006 年 10 月 3 日)	Regional cerebral blood flow changes in depression after electroconvulsive therapy	Segawa, K. et al	精神科
Psycho-Oncology (発行 2006 年 9 月 日)	Mental health literacy in Japanese cancer patients: ability to recognize depression and preferences of treatments-comparison with Japanese lay public	Okuyama, T. et al	精神科
Psycho-Oncology (発行 2006 年 11 月 6 日)	Associated and predictive factors of sleep disturbance in advanced cancer patients	Akechi, T. et al	精神科
Cochrane Database Syst Rev (発行 2007 年 1 月 24 日)	Combined psychotherapy plus antidepressants for panic disorder with or without agoraphobia	Furukawa, T. et al	精神科
Psychiatry and Clinical Neurosciences (発行 2007 年 2 月 日)	Reliability and validity of the Japanese version of the Frontal Assessment Battery in patients with the frontal variant of frontotemporal dementia	Nakaaki, S. et al	精神科
JAMA (発行 2007 年 2 月 7 日)	Association between unreported outcomes and effect size estimates in Cochrane meta-analyses	Furukawa, T. A. et al	精神科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
British Journal of Psychiatry (発行 18 年 5 月 日)	Alcohol consumption and suicide among middle-aged men in Japan	Akechi, T. et al.	精神科
Japanese Journal of Clinical Oncology (発行 18 年 5 月 日)	Psychological distress experienced by families of cancer patients: preliminary findings from psychiatric consultation of a cancer center hospital	Akechi, T. et al.	精神科
Journal of Neurosurgery 105 巻 (発行 2006 年 12 月 日)	Stereotactic radiosurgery for metastatic tumors in the Pituitary gland and cavernous sinus	Shibamoto.Y.	放射線科
Kurume Medical Journal (発行 2006 年 7 月 15 日)	Absence of Radioadaptive Responses in Four cell-lines in Vitro as Determined by Colony Formation Assay	Shibamoto.Y.	放射線科
J Anesth (発行 2006 年 月 日)	Use of landiolol in the perioperative management of supraventricular tachycardia.	Sugiura Takeshi	麻酔科
Anesthesiology (発行 2006 年 月 日)	Use of ketamine to facilitate opioid withdrawal in a child.	Sugiura Takeshi	麻酔科
J Anesth (発行 2006 年 月 日)	Postextubation airway management with nasal continuous positive airway pressure in a child with Down syndrome.	Sugiura Takeshi	麻酔科
日本ペインクリニック学会誌 (発行 2006 年 月 日)	眼窩上神経ブロックおよびステロイド投与が疼痛軽減に著効した頸動脈海綿静脈洞瘻の 1 症例	森田正人	麻酔科
J. Anesth (発行 2007 年 月 日)	Anesthetic management of a patient with mitochondrial myopathy, encephalopathy, lactic acidosis, and stroke-like episodes (MELAS) during laparotomy. J	Nobuko Sasano	麻酔科
J Neurosci. (発行 2007 年 月 日)	Ra1A and Ra1B function as the critical GTP sensors for GTP-dependent exocytosis. J Neurosci.	Fujita Y	麻酔科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Anesth (発行 2006 年 月 日)	nadvertent intrathecal cannulation in an infant demonstrated by three-dimensional computed tomography: a rare complication of internal jugular vein catheterization.	Fujita Y	麻酔科
Acta Anaesthesiol Scand (発行 2006 年 月 日)	intra-operative monitoring of vagal nerve activity with wire electrodes. Acta Anaesthesiol Scand.	Sobue K	麻酔科
神経麻酔・集中治療プロシーディング (発行 2006 年 月 日)	硬膜外麻酔併用全身麻酔時に必要な最小限セボフルラン濃度の検討	藤田義人	麻酔科
日本集中治療医学会雑誌 (発行 2007 年 1 月 日)	呼気終末二酸化炭素分圧を一定に保つ順次ガス供給システム(SGDS)の紹介	薊 隆文	麻酔科
外科治療 (発行 2006 年 4 月 日)	【外科救急処置アトラス】 基本術技 気管挿管法	薊隆文	麻酔科
Ann Emerg Med (発行 2006 年 10 月 日)	Modified N95 mask delivers high inspired oxygen concentrations while effectively filtering aerosolized microparticles.	Azami T	麻酔科
脳循環代謝 18 (発行 2006 年 月 日)	血液脳関門・脳浮腫とアクアポリン	山田和雄	脳神経外科
Medicina 43 (発行 2006 年 月 日)	ブレインアタックの診断・くも膜下出血を見逃さないために	間瀬光人	脳神経外科
脳神経検査(脳神経外科学大系 2 (発行 2006 年 月 日)	検査・診断法	間瀬光人	脳神経外科
インターベンション時代の脳卒中学・上・超急性期から再発予防まで (発行 2006 年)	脳ヘルニアに伴う諸徴候	間瀬光人	脳神経外科
J Neurosurg (発行 2006 年)	Tissue plasminogen activator in chronic subdural hematomas as a predictive indicator of recurrence	Katano H	脳神経外科
脳神経外科学大系・神経科学 (発行 2006 年)	脳虚血の病態と遺伝子発現	片野広之	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ファーマナビゲーターシリーズ「脳卒中編」 (発行2006年)	脳血管攣縮とその治療	梅村淳	脳神経外科
脳神経外科速報 (発行2006年)	視床下核 DBS における手術プランニングと微小電極記録	梅村淳	脳神経外科
脳卒中の外科 (発行2006年)	高齢者重症破裂脳動脈瘤への急性期塞栓術:-Tighr packing にこだわらない治療方針から	相原徳孝	脳神経外科
日本臨床 (発行2006年)	脳内出血 (高血圧性脳出血) 総論 脳内出血の外科的治療の適応 開頭血腫除去術 Indication of craniotomy in patients with spontaneous intracerebral hemorrhage	相原徳孝	脳神経外科
Nagoya Med J (発行2006年)	Gene expression profiling during C6 astrocytoma cell invasion	Sakata T	脳神経外科
ICU と CCU (発行2006年)	脳浮腫・頭蓋内圧亢進症の治療	谷川元紀	脳神経外科
Clin Infect Dis, (発行2007年2月 日)	Genotype B and Younger Patient Age Associated with Better Response to Low-dose Therapy: A Trial with Pegylated/non-pegylated Interferon alpha-2b for HBeAg-Positive Chronic Hepatitis B Patients in China.	Kurbanov F, et al.	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)
Hepatology. (発行2006年5月 日)	A comprehensive system for consistent numbering of HCV sequences, proteins and epitopes.	Mizokami M, et al.	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)
J Clin Microbiol. (発行2006年12月 日)	Simultaneous quantification and genotyping of hepatitis B virus for genotypes A to G by real-time PCR and two-step melting curve analysis.	Mizokami M, et al.	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)
J Med Virol. (発行2006年12月 日)	High frequency of hepatocellular carcinoma in Mongolia; association with mono-, or Co-infection with hepatitis C, B, and delta viruses.	Kurbanov F, et al.	中央臨床検査部 (臨床分子情報医学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属 部門
Hepatol Res. (発行 2006 年 12 月 日)	Measurement of hepatitis B virus core-related antigen as predicting factor for relapse after cessation of lamivudine therapy for chronic hepatitis B virus infection.	Shinkai N, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
Hepatology. (発行 2006 年 10 月 日)	Influences of Hepatitis B Virus Genotypes on the Intra- and Extracellular Expression of Viral DNA and Antigens.	Sugiyama M, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
J Hepatol. (発行 2006 年 11 月 日)	Specific Mutations in Enhancer II/Core Promoter of Hepatitis B Virus Subgenotypes C1/C2 Increase the Risk of Hepatocellular Carcinoma.	Tanaka Y, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
J Med Virol. (発行 2006 年 8 月 日)	Molecular Epidemiology of Hepatitis B Virus in the United Republic of Tanzania.	Hasegawa I, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
Intervirology. (発行 2006 年 8 月 日)	Variations of the Viral NS5B Region in Japanese Patients with Chronic Hepatitis C Virus Genotype 1b Infection: No specific amino acid substitution was identified as determinants to treatment response to Interferon/Ribavirin Combination Therapy.	Sugihara K, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
Hepatol Res. (発行 2006 年 6 月 日)	A case-control study of response to lamivudine therapy for 2 years in Japanese and Chinese patients chronically infected with hepatitis B virus of genotypes Bj, Ba and C.	Orito E, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
J Gen Virol. (発行 2006 年 7 月 日)	Novel Subgenotypes of Hepatitis B Virus Genotype B and C Among Chronic Liver Disease Patients in the Philippines. J Gen Virol.	Sakamoto T, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gen Virol. (発行 2006 年 5 月 日)	Molecular tracing of Japan - Indigenous hepatitis E viruses.	Tanaka Y, et al.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)
臨床病理. (発行 2006 年 月 日)	ルミパルス <i>f</i> を用いた B 型肝炎ウイルス コア関連抗原 (HBcrAg) 測定法の基礎的・ 臨床的検討.	田中靖人ら.	中央臨床 検査部 (臨 床分子情 報医学)

計 188 件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 戸 莉 創
管理担当者氏名	事務課長 前川 史朗

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		病歴センター 事務課 各診療科 薬剤部	処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、入院診療要約など医療情報を電子記録化して一元管理している。また、紹介状についてもスキャナーによる読み込みにより電子記録化している。 なお、電子記録化前の手術記録、看護記録、検査所見記録、入院診療要約、紹介状等については、カルテに添付して整理、入院分カルテは病歴センターで一括保管し、外来分カルテ及びエックス線写真は各診療科外来診療室において保管している。なお、入院カルテ及び外来カルテとも1診療科1カルテの形態で作成され、保管されている。 処方せんについては、薬剤部において保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務課	/
	高度の医療の提供の実績	事務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務課	
	高度の医療の研修の実績 閲覧実績	事務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
確規 保則 の第 9 条 の 2 3 及 び 第 1 1 条 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務課長 前川 史朗
閲覧担当者氏名	事務課事務係長 青山 賢二
閲覧の求めに応じる場所	事務課事務係

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	57.5%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数	9,315人	
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,731人	
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	2,239人	
	D:初診の患者の数	25,044人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専任(1)名 兼任(3)名・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 再発防止のための事例収集及び再発防止策の策定と実行・ 安全確保のための研修会及び周知・啓発活動・講演会の企画・運営・ 医療事故防止等検討委員会・リスクマネージャー会議の企画・運営(資料、議事録の作成及び保存)・ 医療事故調査委員会設置・ 患者相談窓口との連携	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：(別紙資料1を参照)・ 安全管理のための理念・安全管理に関する基本的な考え方・安全管理のための組織・ 医療事故防止等検討委員会設置要綱・リスクマネージャー会議運営要綱・医療事故調査委員会設置要綱・ 患者相談室設置規定・ インシデント・アクシデントレポートの電子報告システム・ 医療事故(アクシデント)報告制度・公表基準・ 共通診療マニュアル・部門別診療マニュアル	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年14回(臨時含む)
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：(別紙資料2を参照)・ 安全管理体制の確保に関すること・ 安全管理のための教育・研修に関すること・ 医療事故防止のための周知・啓発及び広報に関すること・ 医療事故の事例検討及び事故防止策に関すること・ 医療事故発生時における検証と再発防止策に関すること・その他医療事故防止に関すること	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年30回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：(別紙資料3を参照)・ 安全管理に関する研修(研修医・研究医・新規看護師・新規職員・中途採用者)・ 医療事故防止講演会(感染対策講演会)・ 危機管理研修会(重大事例報告会)	

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ リスクマネジメントマニュアルの定期的見直し(追録・加除修正)
 - ・ 安全管理に関する自己点検評価報告書の提出・まとめ
 - ・ 事例収集による分析(定量及び定性分析)・対策
 - ・ RMニュースの発行、
 - ・ リスクマネージャー会議の定例化《毎月1回←1回/2ヶ月》
 - ・ 電子カルテ上レポート報告システム

2 安全管理のための理念

- ・ 安全の確保を医療行為における最大の使命とします。
- ・ 安全で質の高い医療の提供を実現します。
- ・ 患者さん中心の医療の提供を実現します。

3 安全管理に関する基本的考え方

市立大学病院は、患者さんの貴重な生命を預かる病院として、安全で安心できる質の高い医療を提供する使命がある。

また、特定機能病院として高度な医療の提供や教育を実施する中で、その責任体制や役割分担を明確にし、病院全体で安全管理の徹底を図る必要がある。

このため、病院長を安全管理の最高責任者として、また副病院長を安全管理の指導者である医療安全管理室長として、病院組織全体でリスクマネージメントに取り組むとともに、職員一人一人が患者さんを中心とした安全管理を意識し医療事故等の防止に努めるものとする。

4 安全管理のための組織

2007.4 改訂

市立大学病院に、安全管理体制の確保を図るため次の組織を置く。

<組織>

- (1) 安全管理のための統括安全管理者を置く。統括安全管理者は、病院長とする。
- (2) 統括安全管理者の下に安全管理指導者を置くとともに、医療安全管理室を設置する。安全管理指導者は、副病院長（安全管理・教育担当）とし医療安全管理室長を兼ねるものとする。
- (3) 安全管理指導者の下に、総合安全管理者として医療安全管理室にジェネラルリスクマネージャーを置き、医療安全管理室の副室長及び主幹をもって充てることとし、病院長が委嘱する。
- (4) 安全管理指導者の下に、安全管理者として各部門に次のとおりリスクマネージャーを置く。リスクマネージャーは、各部門の次の職にある者をもって充てることとし、病院長が委嘱する。（当該職が空席の場合、あるいは当該者が医療事故防止等検討委員会委員である場合は、別に病院長が指名し委嘱する。）

① 安全管理部門：副室長（2名）及び主幹（1名）

② 診療部門：診療科副部長（27名）コア診療研修主任（1名）

③ 看護部門：副看護部長及び師長（28名）

④ 中央部門：副部長・副センター長・技師長・薬剤部長（16名）

⑤ 管理部門：事務系課長・患者相談員（5名）

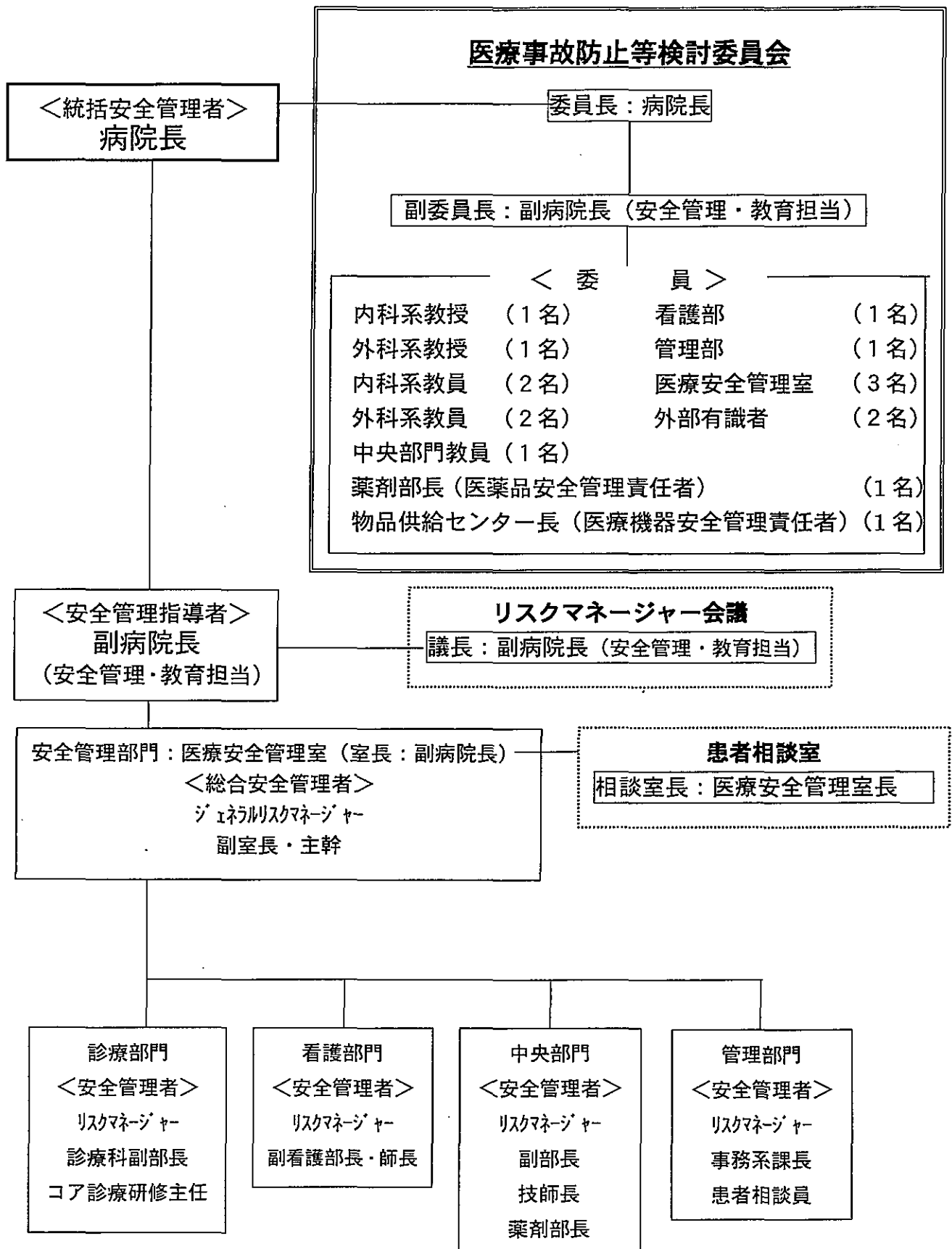
- (5) 病院における安全管理体制等についての審議機関として、医療事故防止等検討委員会を置く。【医療事故防止等検討委員会設置要綱】
- (6) 病院における安全管理体制等の周知徹底機関として、リスクマネージャー会議を置く。【リスクマネージャー会議運営要綱】

<職務>

- (1) 統括安全管理者(病院長)は、病院全体の安全管理体制の確保の徹底を図るとともに、安全管理に関する病院全体の責務を担うものとする。
また、医療事故防止等検討委員会委員長として委員会を運営する。
- (2) 安全管理指導者(副病院長)は、統括安全管理者を補佐する。
安全管理指導者は、リスクマネージャー及び院内への安全管理に関する事項について周知の徹底を図るとともに、その情報収集、指導、相談及び対応窓口となる。
また、リスクマネージャー会議の議長として会議を運営する。
- (3) 安全管理者(リスクマネージャー)は、安全管理指導者の下に部門内職員へ安全管理に関する事項の周知徹底を図るとともに、その情報収集、相談及び対応窓口となる。また、ジェネラルリスクマネージャーは組織横断的に安全管理者としての職務を行う。

市立大学病院における安全管理のための組織

2007.4 改訂



1 目的

名古屋市立大学病院に、患者及びその家族（以下、「患者等」という。）からの医療に関する相談に対して適切な対応及び情報提供等の支援を行うことにより、患者等と医療機関との相互の信頼に基づく医療の推進を以って医療安全管理に資するために患者相談室を設置する。

2 組織

- (1) 患者相談室の組織は、患者相談室室長（以下、「室長」という。）、患者相談室副室長（以下、「副室長」という。）及び患者相談員で構成する。
- (2) 室長は医療安全管理室室長とし、副室長は医療安全管理室主幹及び管理部医事課長する。
- (3) 患者相談員は次の各号に掲げる者とする。
 - 一 病院窓口相談員
 - 二 管理部医事課医療社会事業担当
- (4) 前号の他、室長は必要と認める者に患者相談業務を依頼することができる。

3 業務内容

患者相談室は、次の業務を行う。

- (1) 患者等からの名古屋市立大学病院における医療に関する相談への対応
- (2) 相談内容の各部門への報告、照会
- (3) 相談後の取扱い等の活動の記録
- (4) 相談件数、内容の調査、分析
- (5) その他、患者相談に関して必要な事項

4 患者等への配慮

患者相談室において、患者等からの相談を受ける際には、次の事項に配慮しなければならない。

- (1) 相談により患者等が不利益を被らないこと
- (2) 相談に関する患者等の情報の保護されること

5 開設時間

相談窓口の開設時間は、土日祝日及び年末年始を除く8時30分から17時までとする。

6 庶務

患者相談室の庶務は、管理部医事課において処理する。

7 その他

この規程に定めるもののほか、患者相談室に関して必要な事項は、室長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 名古屋市立大学病院患者様相談コーナー事務取扱要領は廃止する。

(1) 目的

この制度は、病院組織で医療事故等発生時における適切且つ迅速な対応を図るとともに、医療事故の再発防止を図るため、分析・評価に資することを目的とする。

(2) 医療事故（アクシデント）とは

過失の有無に関わらず、医療の全過程において発生する人身事故一切を包括して言うものであり、この中には患者ばかりでなく医療従事者が被害者である場合や医療行為とは直接関係のない転倒落等も含むものとする。

(3) 医療事故（アクシデント）の報告

医療事故が発生した場合は、過失の有無、患者等からのクレームの有無に関わらず、各職の部門長及び看護部長（以下「部門長等」）へ報告するとともに当該診療部門リスクマネージャーを通じて副病院長へ迅速かつ正確に報告するものとする。尚、報告情報は医療事故防止のために使用されるものであり、報告したことを理由として不利益を受けるものではない。

<報告すべき「医療事故」の定義>：平成12年11月2日臨床教授の会承認

- ① 医療の全過程において発生するすべての人身事故で、死亡、生命の危険、病状の悪化等の身体的被害及び苦痛、不安等の精神的被害が生じた場合。
 - ② 患者等から抗議を受けた場合及び医事訴訟に発展する可能性がある場合。
 - ③ 患者等が医療行為とは直接関係しないが負傷した場合。（廊下で転倒、院内で自殺）
 - ④ 医療従事者自身に被害が生じた場合。
- ※ なお、判断に迷う場合は、リスクマネージャー及び当該診療科リスクマネージャー又は医療安全管理室へ相談する。

(4) アクシデント（医療事故）発生時における対応

① 初動体制

当事者、事故等発見者、第一受付者等（以下「当事者等」という。）事故等の拡大及び二次発生を防止するとともに患者等の安全を確保し、必要に応じて応援体制を整備する。

② 医療事故発生時の報告手順

- | | | |
|---|---|----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 医師職：当事者等⇒上位医師 イ 看護職：当事者等⇒看護師長 ウ その他職：当事者等⇒係長職 | } | 当該診療部門リスクマネージャー⇒副病院長 |
|---|---|----------------------|

※ 緊急的対応が必要となる場合、当事者は、直接部門の部門長等へ報告する。

また、上記手順のほか、関係部門への報告についても配慮する。

(5) 病院長への報告

副病院長は、各部門長等より報告を受けた事項について吟味し、速やかに病院長へ報告する。

(6) 報告方法

医療事故の報告は、電子カルテ上のインシデント・アクシデント報告システム【別添1】により、医療事故発生後速やかに提出するものとする。

但し、時間外や緊急を要する場合は、直ちに口頭で報告した後、速やかに【別添1】により報告する。なお、入力当事者又は発見者が行い、当該診療部門リスクマネジャーの承認を得て、副病院長へ提出する。

(7) 報告情報の取扱い

医療事故の報告情報については、医療安全管理室において、報告情報を取りまとめ電子的記録として保管する。

(8) 医療事故の分析及び再発防止策の徹底

報告された医療事故についての分析等については、医療事故防止等検討委員会で審議する

また、事故概要、再発防止策については、各部門のリスクマネジャーを通じて周知するとともにRMニュースにより徹底を図るものとする。

(9) 患者・家族への対応

ア 患者に対しては、最高の医療技術により誠心誠意治療に専念するとともに、患者・家族に対しては誠意を持って医療事故の説明を行う。

イ 医療事故の患者・家族に対する説明は、各部門の部門長等があたるものとする。

(10) 患者・家族への対応における留意点

診療の過程において発生した医療事故については、法的な責任問題へと発展する場合があります、病院が組織的に対応していく必要がある。

したがって、個人的な接触や説明は後の対応に資するため、次のような点に留意し対応するものとする。

① 不幸にも患者が死亡された場合は、病理解剖を家族に勧める。

② 患者・家族への対応については、診療録等に詳細に記載しておく。

(1) 目的

この制度は、リスクマネジメントに対する病院の取り組みの一環として医療事故等へ結びつく可能性のある事例を院内から広く集約し、その要因を分析することにより、医療事故等の防止を図るとともに、リスクマネジメントに対する病院全体の意識の高揚を図ることを目的とする。

(2) インシデントとは

日常の医療現場で、「ヒヤリ」としたり、「ハット」とした経験など、結果的にアクシデントやトラブルには至らなかったニアミスなどをいうものとする。

(3) インシデントの報告

インシデントの報告は、電子カルテ上のインシデント・アクシデント報告システム【別添1】により報告するものとする。尚、報告情報は医療事故防止のためにのみ使用されるものであり、これを報告したことを理由として不利益を受けるものではない。フローチャートP15、P16に示す。

ア 診療部門：	}	当事者⇒上位担当者⇒医療安全管理室
イ 看護部門：		
ウ 中央部門：		
エ 事務部門：		

(4) 病院長への報告

副病院長は、早期に対策を必要とする事例及び集計結果について病院長へ報告する。

(5) 報告情報の取扱い

インシデント報告情報については、医療安全管理室において報告情報を取りまとめ電子的記録として保管する。

(6) 分類・集計

インシデント報告について、分類コード表【別添2】に基づきイントラネット報告されたものを、月単位ごとに集計する。集計結果は病院ホームページで公開する。

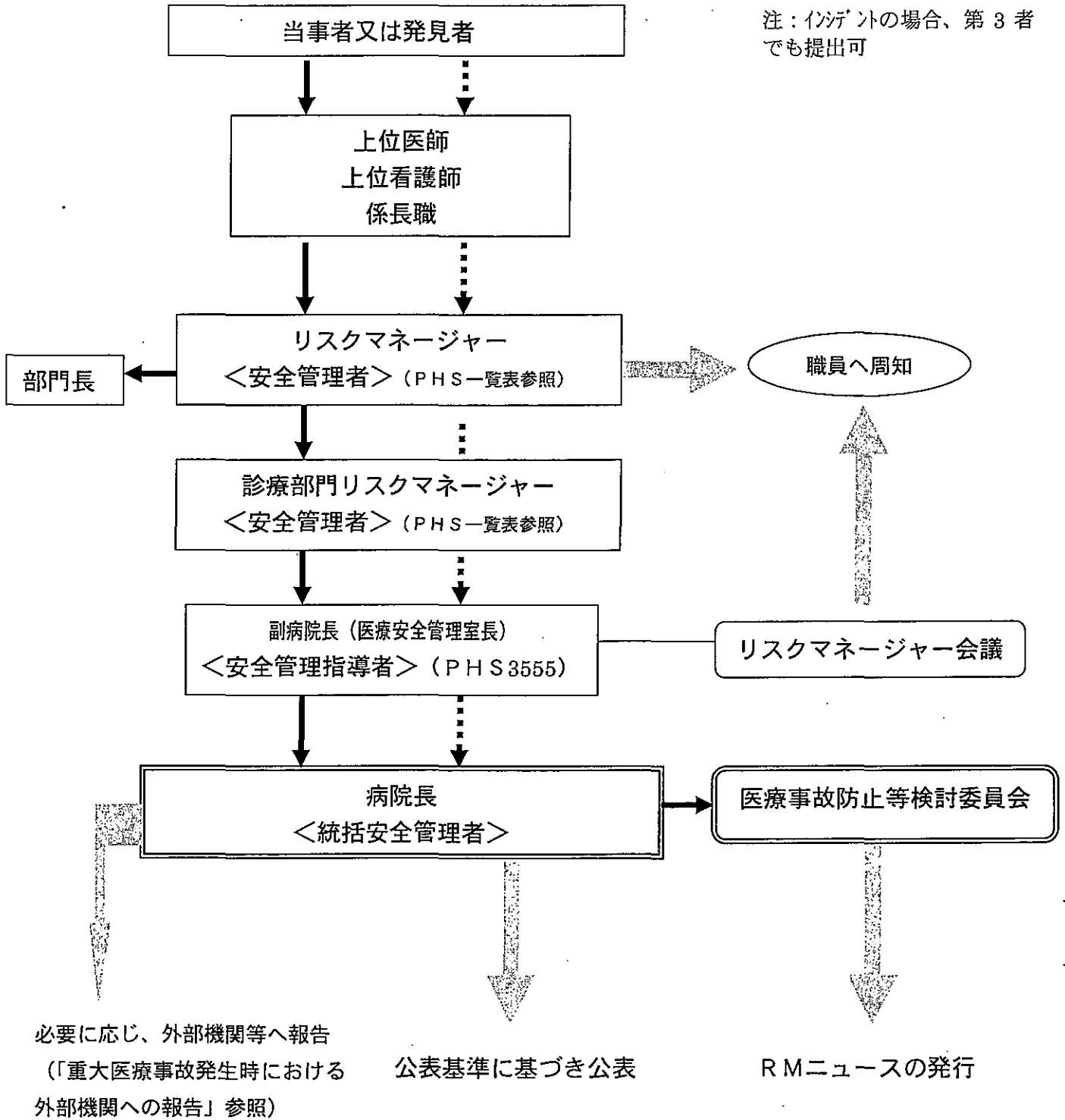
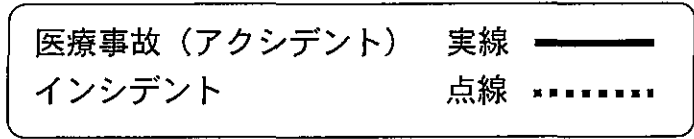
(7) 分析と事故防止対策

インシデント事例及び集計結果の分析等については、医療事故防止等検討委員会で審議した後、リスクマネージャ会議を通じて周知するとともにRMニュースにより徹底を図るものとする。

9 医療事故等報告制度の流れ（概要）

2007.4 改訂

詳細は巻末資料を参照



インシデント・アクシデントレポートのレベル・グレード別電子報告システム

アクシデント（グレード0から3）：

過失の有無に関わらず、医療の全過程において発生する人身事故
インフォームドコンセントがなされている合併症を含む

中等度以下アクシデント（グレード0および1）

グレード0：

医療事故による身体への影響は小さい（処置不要）と考えられる場合

グレード1：

医療事故による身体への影響は中等度（処置が必要）と考えられる場合

重大アクシデント（グレード2および3）

グレード2：

医療事故による身体への影響は大きい（患者を死に至らしめる可能性がある、
または重大もしくは不可逆的傷害を与えもしくは与える可能性がある）場合

グレード3：

医療事故により、患者を死に至らしめた場合

インシデント（レベル0および1）：

日常の医療現場で、「ヒヤリ」としたり、「ハット」した経験など、結果的にア
クシデントやトラブルには至らなかったニアミスなどをいう

レベル0：

医療行為が実施される前に気付かれたもの

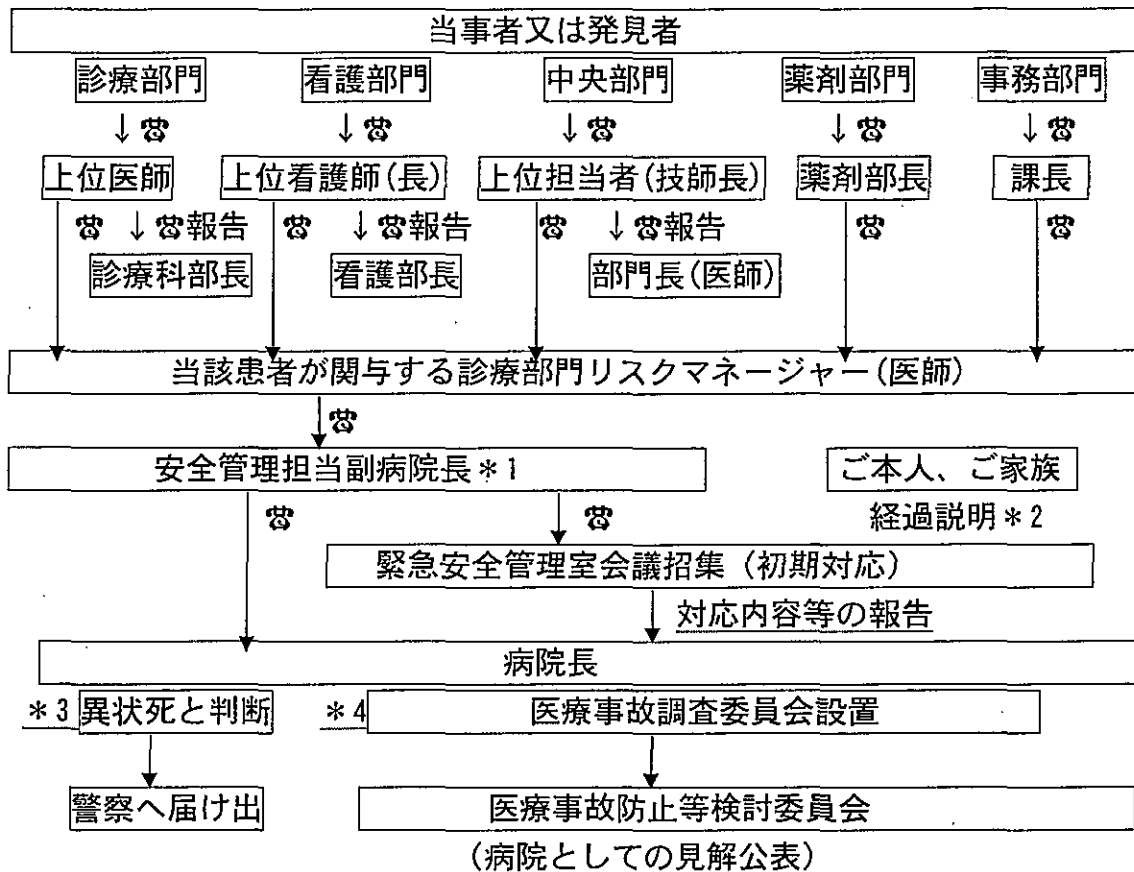
レベル1：

医療行為が実施されたが、健康被害が発生しなかったもの

*** 分類に迷う場合は、医療安全管理室へお尋ね下さい（17539）。**

*** レポートが提出されない場合には病院としてのサポートが受けられなくなる場合があります。**

重大アクシデント（グレード2および3）発生



（異状死との判断の場合は発生から24時間以内に警察へ）

別途、再発防止のための対策レポートを提出

☞ 緊急電話連絡を示す

*1 安全管理担当副院長への連絡は交換台（内線9番）へ依頼する。

*2 適宜、診療科部長、看護部長、等から経過説明を行う。

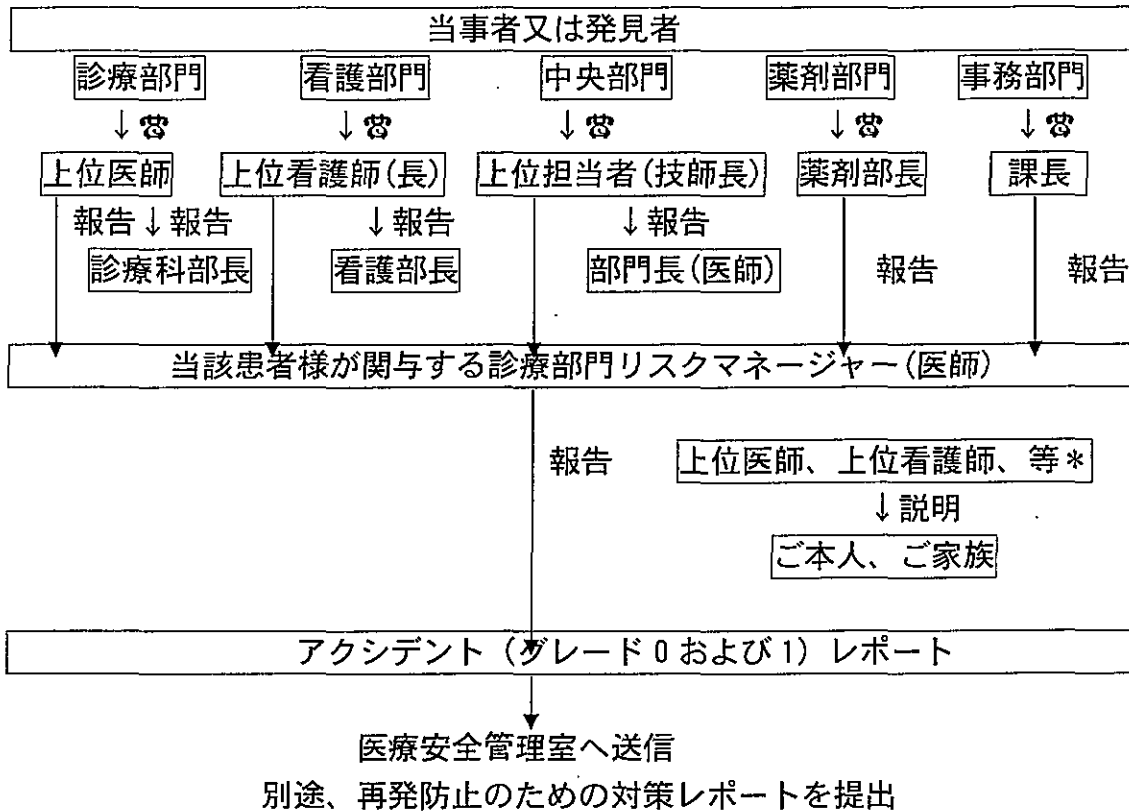
*3 病院長が届出る。

*4 重大事故が発生し、事実の究明、事故原因の検証及び調査、再発防止策の検討、改善措置等が必要であると病院長が判断した場合に設置する。

アクシデントレポート（グレード2および3）を送信するにあたっての留意事項：

- 1) レポートは当事者が作成し、上位担当者、部門責任者のチェックを受けた上で、診療部門リスクマネージャー（医師）が医療安全管理室へ送信する
- 2) 「再発防止のための対策レポート」は、当該診療科（部門）の医師、病棟医長、看護師（技師）などが共同で作成し、当該診療部門のリスクマネージャーが別途提出する

中等度以下アクシデント(グレード0 および1)発生

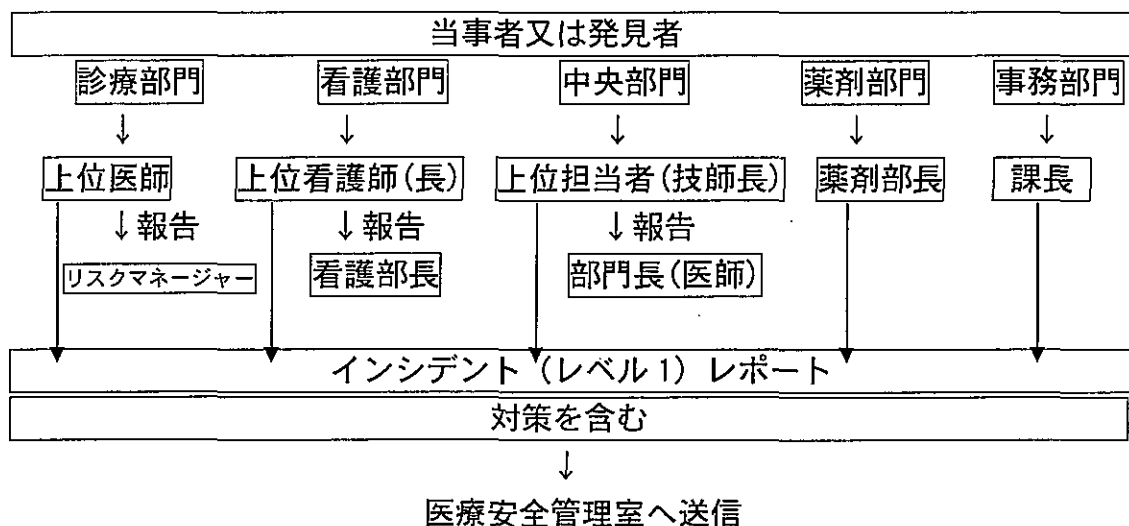


* 診療部門リスクマネージャーが行う場合がある

アクシデントレポート(グレード0 および1)を提出するにあたっての留意事項:

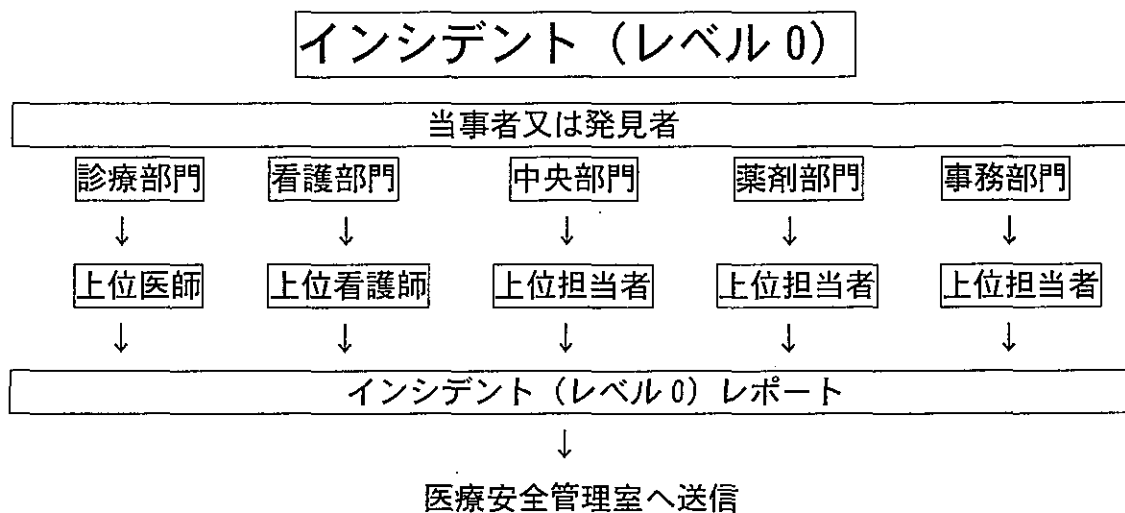
- 1) レポートは当事者が作成し、上位担当者、部門責任者のチェックを受けた上で、診療部門リスクマネージャー(医師)が医療安全管理室へ送信する
- 2) 「再発防止のための対策レポート」は、当該診療科(部門)の医師、病棟医長、看護師(技師)などが共同で作成し、当該診療部門のリスクマネージャーが別途提出する

インシデント（レベル1）発生



インシデント（レベル1）レポートを書くにあたっての留意事項：

- 1) レポートは当事者が入力し、上位担当者が医療安全管理室へ送信する
- 2) 「対策」は、当該診療科（部門）の医師、病棟医長と看護師（技師）などが共同で作成し、インシデントレポート（レベル1）に記入する



インシデント (レベル0) レポートを書くにあたっての留意事項:

- 1) 当事者は、単独または当該部門の上位担当者のチェックを受けた上で医療安全管理室へ送信する
- 2) アクシデントの発生予防に効果の高かったものは病院で評価される

1.4 重大医療事故発生時における外部機関への報告

2004.4 改訂

重大医療事故のうち、当該医療行為が明らかに医療過誤と認められ、また社会的な影響が大きく、報告について本人及び家族の同意が得られた場合、速やかに病院長より報告を行うものとする。

① 重大医療事故とは

ア 医療事故によって、患者を死に至らしめ、または死に至らしめる可能性があるとき。

イ 医療事故によって患者に重大もしくは不可逆的障害を与え、または与える可能性があるとき。

② 医療過誤とは

医療従事者が行う業務上の事故のうち、過失の存在を前提としたものであり、医療の過程において、医療従事者が当然払うべき業務上の注意義務を怠り患者さんへ障害を及ぼした場合を言うものとする。

(1) 報告する外部機関

① 厚生労働省医政局総務課

TEL03-3503-1711(内 2516) FAX03-3501-2048

厚生労働省東海北陸厚生局

TEL052-959-2063 FAX052-959-2065

② 文部科学省高等教育局医学教育課大学病院指導室

TEL03-3581-4211(内 2516) FAX03-3591-8246

③ 愛知県健康福祉部医務国保課 TEL961-2111(内 3171)

④ 瑞穂保健所 TEL851-8141

⑤ 瑞穂警察署刑事課 TEL842-0110(内 302)

(2) 報告様式

基本的に、医療事故の報告書（アクシデントレポート）により行うものとするが、詳細が必要となる場合は、関係者と協議の上決定する。

(3) マスコミへの対応

マスコミへの対応は、管理部事務課事務係を窓口とし個人の取材には応じないものとする。

記者会見等の設定については、必要に応じ関係者と協議の上、病院長が決定する。

* 異状死体の届出義務【医師法 21 条】

医師は、死体又は妊娠四月以上の死産児を検案して異状があると認めたときは、二十四時間以内に所轄警察署に届け出なければならない。

1 8 医療事故防止等検討委員会設置要綱

2007.4 改訂

1 設 置

名古屋市立大学病院（以下「本院」という。）に、医療事故等の防止及び患者の安全確保を目的として、医療事故防止等検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 組 織

- (1) 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。
- (2) 委員長は、病院長とし、副委員長は、副病院長（安全管理・教育担当）とする。
- (3) 委員長及び副委員長の任期は、病院長及び副病院長の任期と同じとする。
- (4) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - 一 病院部長会で選出された部長2名（内科系1名、外科系1名）
 - 二 病院長が指定する診療科（内科、外科においては医学部の講座単位とする。）及び中央部門から選出された教員5名〔内科系2名、外科系2名、中央部門1名〕
 - 三 物品供給センター長（医療機器安全管理責任者）
 - 四 看護部部長
 - 五 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）
 - 六 管理部長
 - 七 医療安全管理室副室長及び主幹（専任）

3 議 事

委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 安全管理体制の確保に関すること
- (2) 安全管理のための教育・研修に関すること
- (3) 医療事故防止のための周知、啓発及び広報に関すること
- (4) 医療事故等の事例検討及び事故防止策に関すること
- (5) 医療事故発生時における検証と再発防止対策に関すること
- (6) 医療事故等の公表に関すること
- (7) その他医療事故の防止に関すること

4 会 議

- (1) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (2) 委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (3) 委員会は、委員2分の1以上の出席がなければ開くことができない。
- (4) 委員長が必要と認めるときは、委員以外のものにも出席を求め意見を聴くことができる。
- (5) 委員会は、月一回程度開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。

5 庶 務

委員会の庶務は医療安全管理室において処理する。

6 その他

この要綱に定めるもののほか、事故防止に関して必要な事項は医療事故防止等検討委員会において定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成12年1月6日から施行する。
- 2 この要綱施行日に選任された委員長及び指名された副委員長の任期は、この要綱に係わらず平成13年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成12年7月6日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、平成13年2月1日から施行する。
- 2 この要綱施行日における副委員長は、副病院長が選任されるまでの間、本要綱施行日以前の委員長が職務を代行するものとし、その任期は、副病院長選任時までとする。

附 則

この要綱は、平成15年1月7日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

1 9 リスクマネージャー会議運営要綱

1 目的

名古屋市立大学病院に、安全管理に関する周知徹底を図ること等を目的として、リスクマネージャー会議（以下「会議」という。）を設置する。

2 構成

会議は、議長及び委員をもって構成する。

議長は、安全管理指導者（副病院長）とする。

委員は、医療安全管理室の総合安全管理者（ジェネラルリスクマネージャー）及び各部門の安全管理者（リスクマネージャー）とする。

3 議事

会議は、次の事項について議事を行う。

- (1) 安全管理の周知徹底に関すること
- (2) 医療事故の再発防止に関すること
- (3) 医療事故防止のための周知、啓発に関すること
- (4) その他医療事故の防止に関すること

4 会議

(1) 会議は、議長が召集し運営する。

(2) 議長に事故ある時は、医療安全管理室副室長がその職務を代行する。

(3) 議長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。

5 庶務

会議の庶務は医療安全管理室において処理する。

6 その他

この要綱に定めるもののほか、安全管理の周知に関して必要な事項は、リスクマネージャー会議において定める。

附 則

この要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

1 設 置

名古屋市立大学病院(以下「本院」という。)に、本院内で「名古屋市立大学病院医療事故等公表基準」(平成15年6月16日制定)第3に定めるグレード2又はグレード3に該当する重大な医療事故(以下「重大医療事故」という。)が発生し、事実の究明、事故原因の検証及び調査、再発防止策の検討、改善措置等が必要であると病院長が判断した場合には、この要綱に定めるところにより医療事故調査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 組 織

- (1) 委員会は、委員長1名、副委員長1名及び委員6名以内をもって組織する。
- (2) 委員長は医療安全管理室長、又は病院長が事案に応じて指名する診療科部長とする。
- (3) 副委員長は医療安全管理室副室長、又は病院長が事案に応じて指名する本院職員とする。
- (4) 委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - 一 医師、管理部長又は管理部課長、薬剤部長、看護部長又は副看護部長若しくは技師長のうちから病院長が指名する者 2名
 - 二 医療事故防止等検討委員会(以下「事故防止委員会」という。)の外部委員のうちから病院長が指名する者 1名
 - 三 外部有識者として病院長が委嘱する者 1名又は2名
 - 四 医療安全管理室主幹
 - 五 上記一から四以外の者で病院長が特に必要と認めた者 1名
- (5) 委員の人は、重大医療事故ごとに、病院長が医療安全管理室長と協議のうえ速やかに行うものとする。

3 議 事

委員会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 事故に関する事実関係の調査及び確認
- (2) 事故原因の究明及び検証
- (3) 再発防止策及び必要となる改善措置の検討及び提案
- (4) 事故の当事者又は関係者に対する事情聴取
- (5) 事故防止委員会に対する医療事故調査報告書の答申(再発防止又は改善に関する提言を含む)
- (6) その他当該重大医療事故の調査等に関して、病院長が特に指示する事項

4 会 議

- (1) 病院長は、重大医療事故発生連絡を受けたら直ちに、医療安全管理室長と協議のうえ、委員会の設置を速やかに決定する。
- (2) 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- (3) 委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。
- (4) 委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。
- (5) 委員長が必要と認める時は、委員以外の者に出席を求め意見を聴くことができる。
- (6) 委員会は隔週開催を基本とし、初会合の日から3ヶ月以内に病院長あてに医療事故調査報告書を答申するものとする。

5 庶 務

委員会の庶務は管理部事務課において処理する。

6 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は事故防止委員会において定める。

附 則

この要綱は、平成17年7月19日から施行する。

インシデント・アクシデントの報告システムの取り扱いについて

本院のインシデント及びアクシデント（以下、インシデント等という）に係る報告書の提出及び承認については、電子カルテシステム上のグループウェアから電子的に行っております。

この報告システムの取り扱いについては、以下のとおり行ってください。

1 このシステムを使用する上での基本事項

(1) 報告書の提出及び承認について

- ・ アクシデント発生時の緊急連絡に関しては、このシステムとは別に必ず報告者に電話等で連絡してください。
- ・ 報告システムでは、承認者に対して、報告書が届いた旨をメール等でお知らせする機能はありません。
従いまして、報告者は、適宜承認者へ報告書を提出した旨の連絡をしてください。
- ・ 報告システムでは、画像の添付はできませんので、必要がある場合には医療安全管理室まで別途提出してください。

(2) 報告書の修正について

- ・ 報告書の修正は、報告者に限定されます（【メモ欄】の入力項目を除く）
修正の必要がある場合には、報告者へ連絡してください。
- ・ 報告者が報告を修正した場合には、今までの承認済みが解除されますので、承認者は再度内容を確認のうえ承認をしてください。

2 画面の詳細説明

(1) グループウェア画面（メイン画面）

電子カルテログイン画面の「部門業務」から「グループウェア」を選択、又は、PF12 キーの「頻用メニュー」から「グループウェア」を選択することにより、下の画面が展開されます。

レポートを新規で作成する場合は「レポート登録」を選択
レポートを修正又は承認する場合は「レポート一覧」を選択

- ①【取消】ボタンは、開いた直後の画面の内容に戻す場合に押してください。
 【削除】ボタンは、保存又は下書き保存のデータを削除する場合に押してください。
 ※【削除】ボタンは、報告又は下書き保存時のデータを展開する場合にのみ表示されます。
 【保存】ボタンは、入力完了後に報告又は下書き保存する場合に押してください。
 ※【保存】ボタン押し後は、レポート保存確認画面が表示され、承認予定者一覧が表示されますので、承認者が異なる場合は変更をしてください。
- ②【報告部門】の入力項目については、報告者の部署と診療科を選択していただきます。
 インシデントの場合は、本来、診療科の選択は必要ありませんが、システムの関係上、必ずどこかの診療科を入力してください。
- ③【患者ID】の入力項目については、患者が特定されないインシデントの場合は、患者IDを「000000000」、男女区分を「男」、年齢を「00」で入力してください。
- ④【対策】の入力項目については、関係者と調整して対策がまとまった段階で報告者が入力してください。
 この対応策に時間を要する場合は、一旦、対応策を未入力にして報告を行い、後日対応策を入力した段階で再報告してください。
- ⑤【身体への影響度】の入力項目について、インシデントの患者の影響度（レベル）が0の場合は、不適切行為が患者に及んだと仮定して予想される身体への影響度を入力してください。
- ⑥【メモ欄】の入力項目については、報告者及び承認者のいずれも記載することが可能ですので、必ず記事の後ろに記入者を括弧書きで記載してください。

○レポート保存確認画面

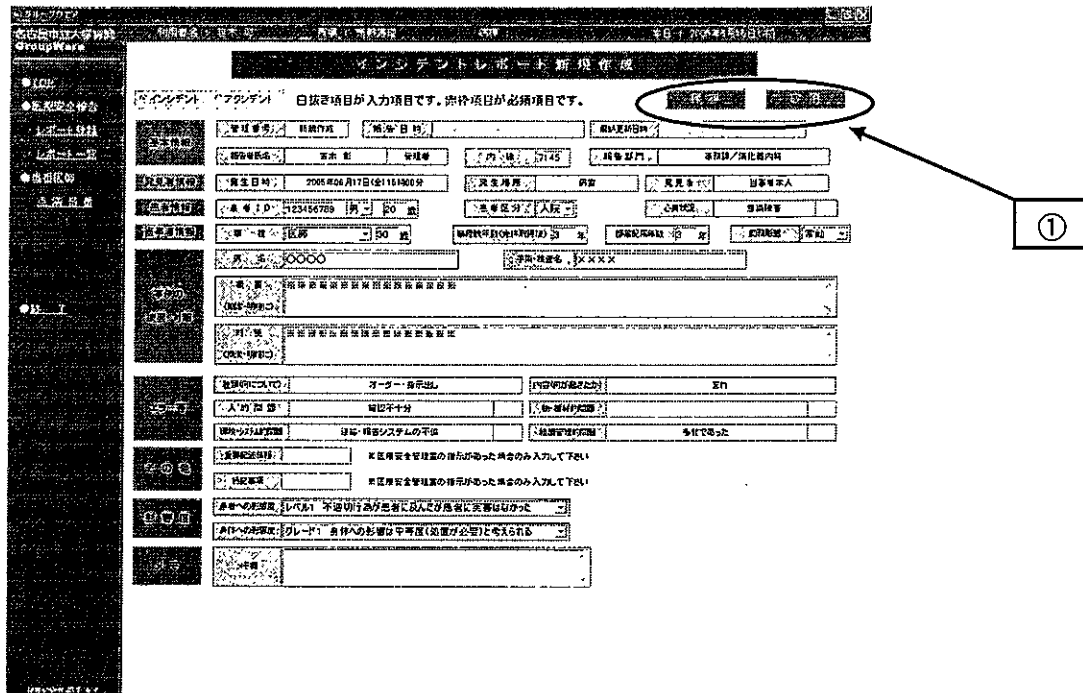
承認者の部分ををクリックすると、承認先の変更が可能

最終的にレポートを報告する場合に押す(承認者全員に報告される)

レポート作成途中に保存する場合に押す(この段階では承認者に報告されない)

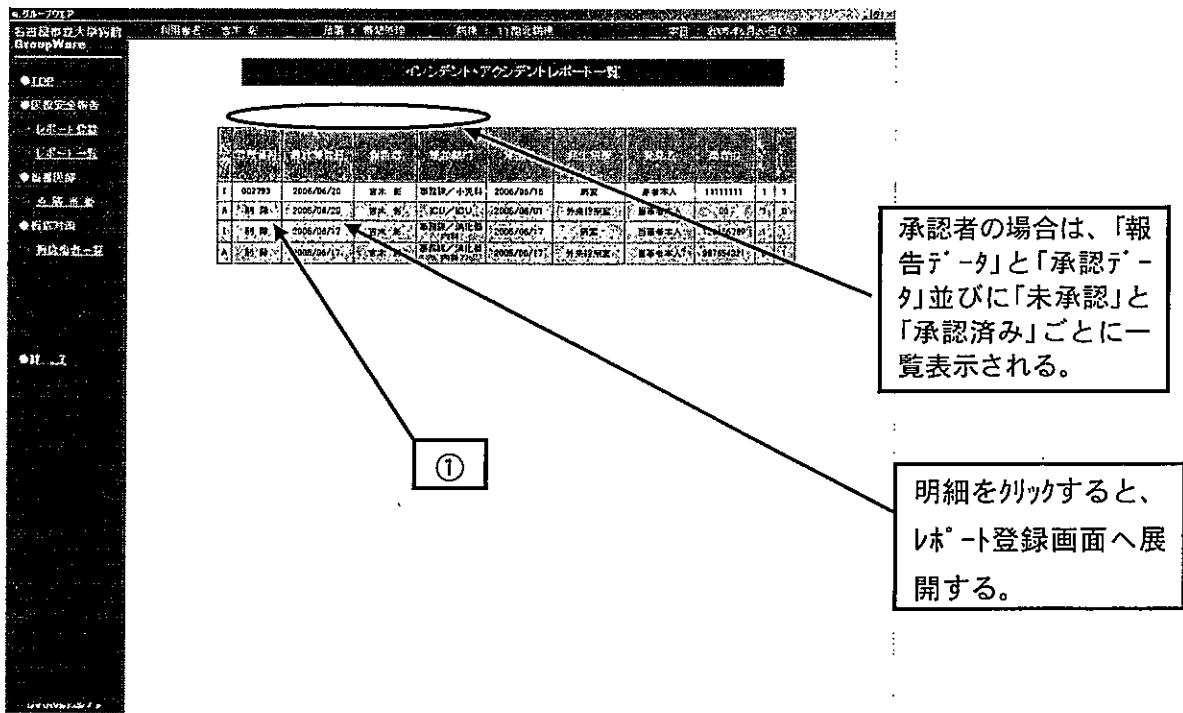
<承認者の場合>

○承認画面



- ① 【承認】ボタンは、承認する場合に押してください。
- 【承認取消】ボタンは、承認済みのものを取り消す場合に押してください。

(3) レポート一覧画面



<報告者の場合>

- ① 報告済並びに下書き保存中のデータが一覧表示されます。
- 下書き保存中のデータは、【管理番号】の項目が「下書き保存」の表示になります。

削除されたデータは、明細の色が変わります。

- ② 一覧の明細を選択すると、レポート登録画面が展開され、修正することができます。

<承認者の場合>

- ① 承認済み並びに未承認のデータが一覧表示され、また、自らが報告したデータも表示されます。
「報告データ」と「承認データ」並びに「未承認」と「承認済み」ごとに表示されます。
- ② 一覧の明細を選択すると、レポート登録画面が展開され、承認することができます。

3 インシデント・アクシデントに関する問合せ先

- (1) システム操作に関するお問合せ : サポートデスク (内線 7145) まで
- (2) 報告の内容に関するお問合せ : 医療安全管理室 (内線 7539) まで

安全管理に関する委員会等の開催状況

(1) 医療事故防止等検討委員会開催状況

(平成18年度)

回数	開催日	主 な 議 事
第 72 回	18 年 4 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 新委員の就任及び外部委員（継続）について報告・承認 ② 安全管理のための組織図改変⇒患者相談室設置規定承認 ③ 医療事故等の報告への対応の審議 ・ アクシデント事例のグレード認定 ④ 手術ビデオの収録録画義務化について審議・継続 ⑤ 医薬品安全情報報告について承認 ⑥ 「ハードコンポジックスクーゲルパッチ」のメーカーによる自主回収について報告 ⑦ ラウンドについて説明 ⑧ RMニュース（69号）の発行について承認 ⑨ 新年度安全管理体制確保のための職員研修了承 ⑩ リスクマネージャーによるインシデントレポート閲覧について審議・了承
第 73 回	18 年 5 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 包括的公表事例（1～3月分）について審議・承認 ③ 胸部外科事例について報告・審議継続 ④ 医薬品安全情報報告について承認 ⑤ RMニュース（70号）の発行について承認 ⑥ 医療事故防止講演会演者推薦について
第 74 回	18 年 6 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② ワーキンググループプレゼンテーションについての報告 ③ 胸部外科事例について審議継続 ④ RMニュース（71号）の発行について承認 ⑤ 医療事故防止講演会（感染対策講演会）案内について了承
臨時	18 年 6 月 19 日	①胸部外科医療事故に関する外部委員の検証報告・公表について審議・継続
臨時	18 年 7 月 3 日	① 胸部外科医療事故に関する関係者の意見聴取及び再発防止策について審議・継続
第 75 回	18 年 7 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 胸部外科医療事故に関する報告書承認 ③ 医薬品安全情報報告について承認 ④ 患者相談事例報告 ⑤ RMニュース（72号）の発行について承認 ⑥ 平成18年度第1回医療事故防止講演会開催について ⑦ 国公立私立大学病院リスクマネージャー研修報告

第 76 回	18 年 8 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 17 年度インシデント事例のまとめについて報告 ③ 転倒・転落危険度スコアについて ④ リスクマネージャー会議インシデントレポート分析情報報告 ⑤ 救急部事例について外部委員招聘し調査委員会設置承認 ⑥ 包括的公表（4-6 月分）について審議・承認 ⑦ RMニュース（73 号）の発行について承認 ⑧ 平成 18 年度第 1 回医療事故防止講演会の研修医参加の報告 ⑨ リスクマネジメントマニュアル改訂版配布について承認
第 77 回	18 年 9 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 医薬品安全情報報告書の報告についての承認 ③ RMニュース（74 号）の発行についての承認 ④ アクシデントレポートの電子カルテ掲載システムについての了承 ⑤ 9 月 11 日の医療事故防止講演会参加状況についての報告
第 78 回	18 年 10 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 医療事故情報収集事業第 6 回報告書について報告 ③ 18 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく立ち入り検査の実施予定についての報告 ④ 患者相談室からの事例報告 ⑤ 危機管理研修会についての報告 ⑥ RMニュース（75 号）の発行についての承認
第 79 回	18 年 11 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 包括的公表（7~9 月分）について審議・承認 ③ 医療事故調査委員会報告について報告 ④ RMニュース（76 号）の発行についての承認 ⑤ 18 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく立ち入り検査の実施についての報告
第 80 回	18 年 12 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 医療事故調査委員会からの報告（呼吸器外科事例）の承認 ③ リスクマネジメントマニュアル改訂について報告 ④ 心肺蘇生 A E D 講習会について報告 ⑤ 医療事故防止月間について報告 ⑥ 18 年度第 2 回医療事故防止講演会講師推薦についての報告 ⑦ RMニュース（77 号）の発行についての承認
第 81 回	19 年 1 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 自己点検評価についての報告 ③ 医療事故情報収集事業第 7 回報告書について報告 ④ 18 年度第 2 回医療事故防止講演会講師決定についての報告・承認 ⑤ RMニュース（78 号）の発行についての承認 ⑥ リスクマネジメントマニュアル事故防止対策シートの追加についての説明
第 82 回	19 年 2 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故等の報告への対応の審議 ② 自己点検評価発行についての承認 ③ 院内救急コール体制についての報告 ④ 事故防止対策シートについて報告・承認 ⑤ RMニュース（79 号）の発行についての承認 ⑥ 分離式電動手術台の改修と使用上についての報告

第 83 回	19 年 3 月 9 日	<ul style="list-style-type: none">① 医療事故等の報告への対応の審議② 医療事故調査委員会からの事例（口腔外科事例）の報告③ 包括的公表（10～12月分）について審議・承認④ 医療事故検証報告についての取り組み状況の報告⑤ 医療安全情報の報告⑥ RMニュース（80号）の発行についての承認
--------	--------------	--

医療安全管理に関する職員研修の開催状況

(平成 18 年度)

研修区分	開催日	対象職員	参加人数	時間	内容
新規採用者研修	4/1～ 4/13	看護師	86名	3時間30分	看護技術演習(物品の取扱い) ※医療事故防止対策を含める)
				12時間	基本的看護技術(与薬等)演習
				4時間	医療機器の取扱い
				2時間	講義：院内感染予防
				30分	講演：病院長講話・看護部の概況(医療事故防止対策)
看護師新規採用者研修	4/11	看護師	86名	1時間	講義：「医療事故防止の実際」
第1回安全管理研修 (医療事故防止オリエンテーション)	4/3	新規採用職員(研修医含)	126名	1時間	講演：「医療事故防止について」 ・ 危機管理システム ・ 医療安全に関する基本的なコンセプト ・ チーム医療の意味するもの
新任看護師長研修	4/17	看護師長	1名	1時間	リスクマネジメント含む
新任主任研修	4/20	主任	3名	1時間	リスクマネジメント含む
第2回安全管理研修 (医療事故防止オリエンテーション)	4/24	中途採用職員(研修医含)	46名	1時間	講演：「医療事故防止について」 ・ 危機管理システム ・ 医療安全に関する基本的なコンセプト ・ チーム医療の意味するもの
感染対策講演会	6/16	全職員	256名	1時間	講演：「クロストリジウム・デ ィフィシレ関連下痢症の臨床 像と当院検出例の解析」
安全管理リンクナ ース研修会 ①	6/8	看護師	36名	3時間30分	講義：「国公立大学付属病院 リスクマネージャ研修報告会」
2年目セミナー	7/20	看護師	58名	1時間 30分	講義：「医療における安全性」 「看護の安全性を確保するた めの取り組みについて」
	7/20	看護師	53名	3時間	講義：演習 人工呼吸器の取扱い

2年目セミナー	8/21 ～ 12/11	看護師	58名		OJT(事故防止の取り組み)
安全管理リンクナース研修会 ②	8/2	看護師	36名	3時間30分	講義：「リスク感性を育て、磨くために」－リンクナースの役割とは－
主任研修会	7/10	主任	42名	1時間	主任の役割と責任 ※医療安全を含む
	7月～ 12月	主任	42名		OJT(目標管理実践、主任の役割の再考)
感染対策リンクナース研修会 ①	7/3	看護師	31名	3時間	講義：「空気感染予防-主に結核対策について-」
医療事故防止講演会	9/11	全職員	898名	1時間	講演「ヒューマンエラー発生のメカニズム」 「ヒューマンエラー対策の考え方」
感染対策リンクナース研修会 ②	9/3	看護師	31名	3時間	講義：「細菌とウイルス」
感染対策講演会	10/4	看護師 検査技師	90名	1時間	講義：「院内感染と予防策 ICT 活動での経験から」
リーダー研修Ⅰ	10/6	看護師	57名	1時間	講義：「看護の動向」 「リーダーの役割」
中途採用者の安全管理研修	10/10	医師・看護師・技師・事務	17名	1時間	講義：「新しい危機管理システム・心がまえ・電子カルテ報告システム」
感染対策リンクナース研修会 ③	10/2	看護師	31名	1時間	講義：「感染管理Ⅰ－感染の基礎－」
危機管理研修会 (重大事例報告会)	11/2	全職員	424名	1時間	講演：「今年度第1回重大事例報告」
感染対策リンクナース研修会 ④	11/6	看護師	31名	3時間	講義：「マキシマルバリアアプリケーションについて 着脱法の実際
感染対策リンクナース研修会 ⑤	12/4	看護師	31名	3時間	講義：「スポルディングの分類・手洗いについて・手洗い手技向上への取り組みについて」

安全管理リンクナース研修会 ③	12/6	看護師	36名	3時間30分	講義：医療分析の意義
AED講習会	12/18	全職員	76名	1時間	講演：AED総論
感染対策リンクナース研修会 ⑥	1/15	看護師	31名	3時間	講義：「脳神経外科・神経内科病棟の尿路感染の実態・尿路カテーテル」
感染防止講演会	1/15	全職員	220名	1時間	講演：「結核症を見逃していませんか」
医療事故防止講演会	2/1	全職員	608名	1時間30分	講演：「 Medikationエラー防止に向けて～アナタとワタシのちょっとしたズレ～」
感染対策リンクナース研修会 ⑦	2/5	看護師	40名	3時間	講義：「SSIについて」 環境管理・サーベイランス・グリッターバッグを用いた手洗一手技の実態調査
安安全管理リンクナース研修会 ④	2/7	看護師	36名	3時間30分	「医療におけるヒューマン・安全管理における病院機能評価」
安全管理リンクナース研修会 ⑤	3/7	看護師	36名	4時間	1年間の活動報告と今後の課題

1.7 医事紛争・医療訴訟への対応について

2007.4

医療訴訟については、医療事故はもとより、医療行為についての不審点があれば患者側は、医療事故と関係なく病院を相手とすることができるため、日常の診療においては、十分なインフォームド・コンセントの実施及び患者・家族への誠意ある対応が基本となることは言うまでもないが、訴訟に至れば病院としての対応が必要となるため、次のように対処するものとする。

(1) 患者等から診療行為に対する疑義の申立があった場合

基本的には、部門長等が対応するものとするが、処理が困難で訴訟に発展することが疑われる場合については、医療事故の報告制度により副病院長へ報告するものとする。

(2) 医療事故に関係する訴訟の場合

- ① 顧問弁護士へ管理部事務課より報告し事後の対応について協議する。
- ② 部門長等は、部門内での窓口となる担当職員を決定し事務課へ報告する。
- ③ 患者側への説明は、部門長等が行うものとし、必ず複数で対応する。
※説明内容については、顧問弁護士との事前の打合せが必要となる。

<説明時の注意事項>

- ・ 説明する場所は、病院内の会議室を利用する。
 - ・ 患者側が説明内容を録音する場合は、病院側も録音する。
 - ・ 説明は、調査結果に基づいた客観的な事実経過のみとし、事故原因等の個人的見解は述べない。
 - ・ 説明内容及び患者側とのやりとりについては、診療録等に詳細に記録する。
- ④ 診療録等については、管理部事務課へ提出するものとし、同課で保管する。
但し、継続して診療を行う場合は、当該部門で責任を持って保管管理する。

(4) 診療録等の開示及び貸出等の要望について

裁判所等から法的手続により診療録等の提出依頼があった場合は、管理部事務課で対応するものとする。

また、患者側から直接要望があった場合については、名古屋市立大学病院診療情報提供要綱に基づくものとする。

インフォームド・コンセントのポイント

2007.4.1 改訂

インフォームド・コンセントとは、単なる「説明と同意」ではなく、医師と患者との良好なコミュニケーションのもとに、主治医が患者に対して十分な説明を行い、患者自らの意思決定に基づいた同意を得ることである。それは、患者の側から言えば、「理解と選択」である。

そして、インフォームド・コンセントの目的は、医師をはじめとする医療従事者と患者間の信頼関係・協力関係の構築であり、後の苦情や紛争を回避するため予防策でも、一切の責任を免れる「免罪符」でもない。

また、インフォームド・コンセントは、医師だけの問題ではないが、医師がもっとも関わりの深い職種である。したがって、インフォームド・コンセントは医師が中心となって、自ら行うべき重要な医療行為の1つと位置付けねばならない。これには、当然、説明のための文書の作成等も含まれる。

具体的には、以下のようなポイントに留意して、インフォームド・コンセントを行わなければならない。

- ・ 全ての医療行為の重要情報が医師により適正に開示されること。
- ・ インフォームド・コンセントの重要な点は文書で行い、説明文や同意書は両者（医師・患者ならびに立会人）が署名をし、診療録に貼付すること。
- ・ 説明された情報と提示された医学的処置の意味が患者に正しく理解されるまでくり返し質問に答えること。
- ・ 医療従事者間の共通の認識・情報の共有を図るため、重要な説明の段階では関係する医療スタッフを同席させること。
- ・ 取り得る医学的処置の選択肢を、そのリスクなどの説明とともに提示すること。
- ・ 合併症については、確率の高い合併症は危険度が低くても説明すべきであり、確率の低い合併症であっても、危険度の高い合併症は説明すること。
- ・ 医師が実行する医学的処置は患者の自主的な同意に基づき選択されたものであること。
- ・ 初診時のコミュニケーション開始から、一般的な検査の意味、処方の意味、現在服用している薬剤の説明、今後の診療予定の相談など、日々の医療従事者・患者関係の中で大小さまざまなインフォームド・コンセントがあるべきと考えること。
- ・ インフォームド・コンセントは、マニュアル通りに行うものではなく、個々の患者の個性、意思と状況に適応した、適切な判断をすること。

転倒・転落アセスメントシート

分類	特徴	評価 スコア	入院時	/	/
年齢	・65歳以上・9歳以下である	2			
既往歴	・過去半年間に転倒・転落をしたことがある。 ・失神発作の既往がある	2			
感覚	・平衡感覚障害がある ・視野狭窄がある	2			
	・視力障害がある ・眼鏡を使用している ・暗さの変化に順応できない ・聴力障害がある	1			
運動機能 障害	・足腰の弱り、筋力低下がある	3			
	・麻痺がある ・しびれ感がある ・骨・関節異常がある ・跛行がある	1			
	・自立歩行できるが、ふらつきがある	3			
	・車椅子・杖・歩行器を使用している	2			
活動領域	・自由に動ける	2			
	・移動に介助が必要である	1			
	・寝たきりの状態であるが、手足は動かせる				
認識力	・痴呆症状がある ・不穏行動がある ・判断力、理解力、記憶力の低下がある ・見当識障害、意識混濁がある	4			
薬 剤	・睡眠安定剤服用中	2			
	・鎮痛剤服用中 ・麻薬服用中 ・抗アレルギー剤内服中	1			
	・下剤服用中 ・降圧利尿剤服用中	1			
排 泄	・尿、便失禁がある ・頻尿がある ・トイレ（室外）まで距離がある ・夜間トイレに行くことが多い	3			
	・ポータブルトイレを使用している ・車椅子トイレをしようしている ・膀胱内留置カテーテルを使用している ・排泄には介助が必要である	1			
	・38.0℃以上の発熱中である ・Hb9.0以下の貧血症状がある	2			
	・手術後3日以内である ・起立性低血圧がある	2			
病 状	・リハビリ開始時期である ・病状ADLが急に回復・悪化している時期である ・めまいがある	1			
	・ナースコールを認識できない、使えない ・行動が落ち着かない	4			
	・ナースコールを押さないで行動しがちである ・何事も自分でやろうとする	3			
生活習慣	・ベッド生活が初めてである	1			
危険度Ⅰ：1～9点 ⇒転倒・転落する可能性がある		合 計			
危険度Ⅱ：10～19点 ⇒転倒・転落を起こしやすい		危険度			
危険度Ⅲ：20点以上 ⇒転倒・転落をよく起こす		サイン			